学校法人
日本赤十字学園
Japanese Red Cross Academy

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

# ANNUAL REPORT

学校法人日本赤十字学園
令和元年度事業活動のご報告

学校法人日本赤十字学園

建学の精神

# 「人間のいのちと健康、尊厳を守るために力を尽くす人材を育てる」

現実を踏まえて理想を忘れず、今、手元にある苦痛を一つでも取り除く努力によって理想に近づく。
これが赤十字の「人道」です。
赤十字の「人道」は、医療や福祉の分野における原点と言えます。
学校法人日本赤十字学園は、赤十字の人道の理念に基づき、人間のいのちと健康、尊厳を守る担い手として地域で、世界で活躍できる人材を育成します。

CONTENTS


ご挨拶／理事長メッセージ …… 01
日本赤十字学園の看護大学・大学院・短期大学 …… 02
【特集】各大学が最も力を入れた事業 …… 04
日本赤十字学園第三次中期計画 …… 06

〈学園全体の動向〉 …… 07

〈各大学・短期大学の概要〉
- 日本赤十字北海道看護大学 …… 08
- 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学 …… 10
- 日本赤十字看護大学 …… 12
- 日本赤十字豊田看護大学 …… 14
- 日本赤十字広島看護大学 …… 16
- 日本赤十字九州国際看護大学 …… 18

〈事業の概要〉
学生の動向 …… 20
教育活動の動向 …… 25
研究活動の動向 …… 26
奨学金の受給状況 …… 28
日本赤十字国際人道研究センターの動向 …… 30

〈財務の概要〉
資金収支決算 …… 32
事業活動収支決算 …… 34
貸借対照表 …… 36
財産目録 …… 38
参考（過去5ヵ年の財務データ） …… 39

〈法人の概要〉
学園の沿革 …… 42
学園の組織/教職員の概要 …… 43
役員・評議員一覧 理事会・常務理事会・評議員会の開催状況 …… 44
各大学・短期大学の施設概要 …… 45


学校法人日本赤十字学園

# 赤十字の理念を
# 教育の基調として

学校法人日本赤十字学園
理事長 大塚義治

日本赤十字学園は、日本赤十字社の看護師養成の高等教育部門として創設され、昭和29年（1954年）の開設以来、皆さまのご支援のもとに、2万人を超える卒業生を輩出し、全国に6看護大学と6大学院、1短期大学を設置する他に類をみない学校法人に発展いたしました。

近年、大学運営においては、18歳人口の減少や看護系大学・学部の新設による大学間の競争が激化し、優秀な学生の確保は極めて困難な状況となっております。優秀な学生を確保するため、最新医療に対応した高度な教育環境の維持・拡充を図り、老朽化した学舎や教育施設・設備等の更新に備えた財源確保など、多くの課題を抱えているところであります。

このような状況下にあって、学園各大学はそれぞれの立地環境のもとに、数多くの看護系大学から学生、保護者そして教員から選ばれる、魅力ある大学であり続けるために、質の高い特色ある教育を実践し、社会の変化に対応できることが必要と考えております。

そのため、日本赤十字学園といたしましても、学園各大学の教学及び大学運営機能の向上を図り、高い実践能力を発揮できる大学組織の構築と質の高い教育、研究活動に不可欠な安定的な経営基盤の構築を目指し、第一次中期計画（平成21年度～平成25年度）に続き、第二次中期計画（平成26年度～平成30年度）が平成30年度に完結いたしました。引き続き令和元年度を初年度として、質の高い教育の提供と研究活動を推進し、優秀な学生の確保対策の取組み及び財政基盤の確立に向けた施策の実践等、合理的で適正な業務運営に取り組みたいと存じます。

これからも学園各大学がそれぞれの特色を活かし、高度で専門的な知識と技術に加え、苦しんでいる人と痛みを分かち合い、患者に寄り添うことができる看護・介護の専門職として、心の豊かな人材の育成を続けてまいることとしておりますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 得られる受験資格・取得資格

- 看護師
- 養護教諭一種免許
- 保健師
- 介護福祉士
- 助産師

### 日本赤十字 広島看護大学

創設:平成12年(2000年)

～赤十字の理念のもと、看護の知恵と心と技を育みます～

| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 500 | 125 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 20 | 10 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |

### 日本赤十字 九州国際看護大学

創設:平成13年(2001年)

～ひとりを看る目、その目を世界へ～

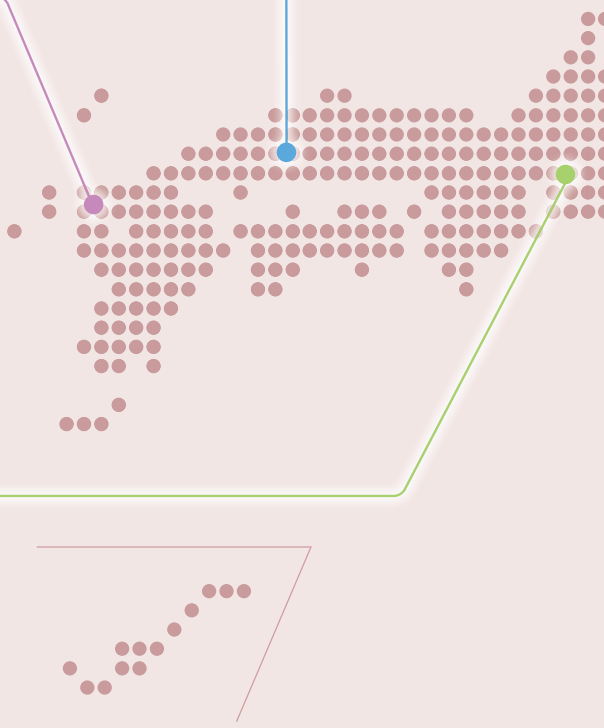
| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 400 | 100 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 20 | 10 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |

### 日本赤十字 豊田看護大学

創設:平成元年(1989年)

～地球に寄り添う看護～

| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 480 | 120 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 20 | 10 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |



## [各大学院における専門看護師教育課程]

| 大学院名 | 教育課程 |
|---|---|
| 日本赤十字北海道看護大学大学院 | がん看護、慢性看護、精神看護 |
| 日本赤十字秋田看護大学大学院 | がん看護、精神看護 |
| 日本赤十字看護大学大学院 | がん看護、小児看護、慢性看護、クリティカルケア看護、精神看護、老年看護、災害看護、在宅看護 |
| 日本赤十字豊田看護大学大学院 | 小児看護、精神看護 |
| 日本赤十字広島看護大学大学院 | がん看護、小児看護、精神看護、災害看護 |
| 日本赤十字九州国際看護大学大学院 | クリティカルケア看護、在宅看護 |

令和2年3月31日　現在

## 日本赤十字 北海道看護大学

創設:平成11年（1999年）

～手渡しの看護を～

| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 400 | 100 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 32 | 16 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |

## 日本赤十字 秋田看護大学
## 日本赤十字 秋田短期大学

創設:平成8年（1996年）

～「生きる」を支える人になる～

| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 400 | 100 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 24 | 12 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |
| 短期大学 介護福祉学科 | 60 | 30 |

## 日本赤十字 看護大学

創設:昭和29年（1954年）

～Vision for Humanity
―人道の実現に向けて～

| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 540 | 130<br>(3年次編入学 10) |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 60 | 30 |
| 看護学研究科 国際保健助産学専攻 修士課程 | 30 | 15 |
| 看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程 | 24 | 8 |
| 看護学研究科 共同災害看護学専攻 博士課程5年一貫制 | 10 | 2 |

### [各大学における認定看護管理者教育課程]

| 大学名 | 教育課程 |
|---|---|
| 日本赤十字看護大学大学院 | 看護管理学領域 |
| 日本赤十字豊田看護大学大学院 | 看護管理学 認定看護管理者コース |
| 日本赤十字広島看護大学大学院 | 看護教育・管理学分野（教育・研究者コース） |

### [各大学における認定看護師教育課程]

| 大学名 | 教育課程 |
|---|---|
| 日本赤十字広島看護大学 | 摂食・嚥下障害看護 |

# 令和元年度 各大学が最も力を入れた事業

## 日本赤十字 北海道看護大学

### 厳冬期避難所展開・宿泊演習の開催

学生ボランティア

体育館に設置された段ボールベッド

令和２年１月25日から26日にかけて、本学の災害対策センター主催で厳冬期避難所展開・宿泊演習を実施しました。

10回目を迎えた今回は、一部を北海道庁の防災総合訓練（会場：北見工業大学）との共同開催とし、例年の約２倍の300名規模の演習となりました。北海道庁、自衛隊のご協力をいただき、キッチンカーを導入した炊出しや例年実施している段ボールベッドやコンテナトイレを利用した演習を行いました。また、今回はこれら災害を乗り切るための３要素であるTKB（トイレ・キッチン・ベッド）の演習に加え、寒冷地ならではとなる第４番目の要素である暖房（W）に関する演習を行いました。

実施にあたっては、規模拡大に伴い多くの学生ボランティアの協力により26時間にわたる演習を無事終了することができました。学生からは「貴重な体験ができた」「何かあったときに役立てたい」との感想を聞くことができました。

## 日本赤十字 秋田看護大学／日本赤十字 秋田短期大学

### 2019AKITA防災キャンプフェス

AKITA防災キャンプフェス

第４回2019AKITA防災キャンプフェスが令和元年９月21日、22日の両日、日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学グラウンドを主会場に、秋田魁新報社と秋田県内赤十字施設で構成される実行委員会の主催で開催されました。本企画は、地域の特性に配慮しつつ、警察、消防、自衛隊、気象庁、国土交通省、行政機関、教育機関、社会福祉協議会、自治会、民間企業など相互の強みを活かして連携し、災害時に避難所となる大学で、地域住民が主体的に防災を学び、地域コミュニティが助け合って（共助）災害への対応に取り組むことがとれるような防災プログラムとなっています。その結果、4,500名を超える市民の参加がありました。防災に関する知識や災害に対する備えへの意識の喚起など、一般市民の防災意識向上のために貢献するとともに地域社会における大学の機能強化の視点からも意義ある活動となりました。

## 日本赤十字 看護大学

### さいたま看護学部の開設

大宮キャンパス

令和元年７月に、文部科学省より日本赤十字看護大学収容定員関係学則変更が認可され、令和２年４月にさいたま看護学部（大宮キャンパス）が正式に開設されることとなりました。

開設に向けた準備として、学部説明会を５回、オープンキャンパスを３回行い、延べ883名の高校生が来場しました。ここでは、広尾キャンパスの学生たちも大学生活について丁寧に説明し、来場者からわかりやすかったと好評でした。新しいキャンパスは、最新のICT設備を備え、機能的でコンパクト、おしゃれなデザインで、高校生からは「ここで学びたいという気持ちが強くなった」との感想が寄せられました。

また、令和元年11月に開催された学部開設・落成式では、埼玉県医師会会長、埼玉県看護協会会長が来賓として出席され、さいたま看護学部への強い期待が寄せられました。同じく11月に行われた推薦入試では、公募・指定校・支部長推薦合わせて43名が、２月の一般入試では317名が出願しました。

## 日本赤十字 豊田看護大学

### 地域社会との連携強化

小学生に講義する職員

地域の高等教育及び地域社会の活性化に寄与することを目的として豊田市と同市に本拠地を置く4大学等（本学、愛知工業大学、中京大学、豊田工業高等専門学校）によって「豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム」を形成しています。

この事業の一環として、令和元年9月に中京大学にて地域の小学生と父兄を対象に「かけっこ教室」を開催しました。冒頭に熱中症対策や応急手当について、本学職員の安井康介主事（赤十字救急法指導員）が講師を務めた後、短距離走と長距離走に分かれて実施しました。参加者は、速く走るコツについて学ぶ機会となりました。今後も豊田市と大学等間との連携をより強化し、将来ビジョンの実現に向けて取組みを続けていきます。

## 日本赤十字 広島看護大学

### より良い教育環境で、より良い学びを

明るく開放的なラーニング・コモンズ

令和元年度は、教育環境の充実に注力し、学生が自主的に活動できるラーニング・コモンズ「SAKURA COMMONS（さくらコモンズ）」（約61.5㎡）を開設しました。可動式の机、イス、ホワイトボードを配置し、自由な空間で考え、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを通じ、多様な学びができる共育型学習スペースとなりました。名称は学内で公募したものです。学生たちは、授業のない日も朝早くから自主的な学修に積極的に利用しています。

また本学では「日本赤十字広島看護大学ブックケアプロジェクト」という、卒業生や一般の方などからの書籍寄贈を活用して大学図書を充実させる活動を行っており、平成26年度からこれまで約61万円の寄付がありました。令和元年度は代表学生3名が自ら本を選ぶ「ブックハンティング」を行い、53冊の本を購入しました。

さらに、アクティブ・ラーニングに不可欠な視聴覚設備では、大講義室のうち2室の更新を行い、プロジェクターやマイクの性能向上に加え、後方に大型モニターを2～4台設置し、学生たちがストレスなく講義を受けることができるよう環境整備を行いました。

## 日本赤十字 九州国際看護大学

### 大学教育再生加速プログラム（AP）

大学教育再生加速プログラム

平成28年度に文部科学省より採択された本事業において、4年間の事業期間の中で、生涯学び続け、成長し続ける看護人材を育成するために、学士課程教育と就職先での現任教育とをシームレスにつなげる「看護職キャリアパス基礎スケール」と「ディプロマ・サプリメント（学位証明書補足資料：DS）」を開発しました。

令和元年度末に事業終了を迎えましたが、1）体系的で組織的な教育活動を展開させること、2）学生の能動的・主体的な学修を促す取組みの充実、3）学修成果の可視化及びPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントの取組みの推進をこれからも継続していくことで、今後の教育の質保証を具現化することが可能となります。また、卒業生や就職先へのDSに関する説明と情報共有化を図り、よりシームレスな接続を目指していくこととしています。

# 日本赤十字学園第三次中期計画
（令和元年度～令和5年度）

## ～学園大学間の連携推進～

日本赤十字学園は、平成21年度から令和元年度までの11年間に3つの中期計画を策定しました。

第一次中期計画（平成21年度～平成25年度）では、各大学の四大化が完了し、すべての大学に大学院修士課程が設置されるなど大学教育の基盤が構築されました。

第二次中期計画（平成26年度～平成30年度）においては、各大学の教学機能、事務機能の向上により、内実の伴った大学組織を構築するとともに、質の高い教育、研究活動に不可欠な安定的な経営基盤の確立を目指し、5つのビジョン（目指すべき大学のイメージ）を指針として掲げ、各事業に各事業に取り組みました。

第三次中期計画（令和元年度～令和5年度）は、計画策定に際して、近年の文部科学省の教育行政施策の動向及び公益財団法人大学基準協会が示す大学評価の項目等を視野に入れつつ、学園各大学の教育環境の維持・向上に資することとして、内部質保証体制の確立を明記しました。さらに、情報通信技術（ＩＣＴ）を活用した教育の提供、就学意欲のある社会人に対する教育環境の確保のための取組み、年々指導が強化される収容定員の管理等の重要性が高まっていることから、これらの事項を念頭に置きつつ、次の６項目を目標に掲げ、事業への取組みの指針としております。

### ［日本赤十字学園第三次中期計画ビジョン］

1. 質の高い教育を実践する大学
2. 情報通信技術（ICT）を活用した教育を実践する大学
3. 学園大学間の連携を活かした大学運営
4. 地域社会との連携及び社会貢献へ積極的に取り組む大学
5. 健全な経営基盤に立つ成長する大学
6. さいたま看護学部の開設及び安定運営

令和元年度学園全体の動向

## 1 日本赤十字看護大学さいたま看護学部（大宮キャンパス）の令和2年度開設に向けて

令和元年7月、文部科学省よりさいたま看護学部（大宮キャンパス）の令和2年度開設が正式に認可されました。8月にはオープンキャンパスを3回開催し、延べ883名の高校生が来場しました。

また、令和元年11月25日には開設・落成式を開催し、来賓の埼玉県医師会会長、埼玉県看護協会会長のほか、大学関係者等55名が出席し、記念式典、内覧会及び懇談会を行い、落成を祝いました。

オープンキャンパス全体説明会

式典後に内覧会を実施（開設・落成式）

## 2 日本赤十字九州国際看護大学元学長の竹下喜久子氏が「第47回フローレンス・ナイチンゲール記章」を受章

2年に一度、顕著な功績のあった看護師等に贈られる世界最高の記章であるフローレンス・ナイチンゲール記章の受章者が、ナイチンゲール女史の生誕の日である令和元年5月12日、赤十字国際委員会（ICRC）ナイチンゲール記章選考委員会（スイス・ジュネーブ）から発表されました。

世界18の国と地域の29名が受章し、日本赤十字九州国際看護大学元学長の竹下喜久子氏が国内外の災害救護活動への画期的な取組み及び医療施設の看護師への実践教育などの功績が認められて受章されました。

令和元年8月に授与式が東京で行われ、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下から記章を授与されたほか、10月には受章を記念して同大学主催による講演会が福岡市内で開催され、在校生との意見交換も行われました。

記念講演会には多くの学生等が参加

学生の質問に回答する竹下元学長

## 3 入学者数等の状況

令和元年度の入学者数は学園全体で学部744名、短期大学21名、大学院では修士課程80名、博士課程23名となりました。また、卒業者数については、学部715名、大学院修士課程73名、博士課程13名となりました。

なお、令和元年度の学位授与式については新型コロナウイルス感染症の影響で、6大学中5大学は開催中止とし、1大学については細心の注意を払い規模を縮小して開催しました。

手渡しの看護を

# 日本赤十字北海道看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0157-66-3311　　住　所　北海道北見市曙町664-1

学長

**河口 てる子**

日本赤十字北海道看護大学は、赤十字の２番目の看護大学として平成11年に世界自然遺産の知床半島が位置する北海道オホーツクの北見市に設立され、20年以上が経過しました。北海道の中心である札幌からは、はるかに遠い、しかし学問分野では最先端をと平成15年に大学院看護学研究科修士課程を、平成28年には赤十字５大学で博士課程を開設しました。北海道オホーツクでも高度で良質なケアや教育を担える人材を育成すべく、平成31年３月に最初の博士課程修了生を出し、毎年確実に博士号を取得した看護師を輩出しております。

平成から令和に替わっても災害だけは増え続けておりますが、本学は赤十字看護大学の名に恥じない、赤十字らしい「厳冬期避難所展開・宿泊演習」によって、北海道のみならず日本中から注目されています。本学の災害対策教育センターが毎年実施する「厳冬期避難所展開・宿泊演習」は、救命することに主眼を置いてきた災害救護・防災から、災害で助かった命を劣悪な避難所環境で脅かされることがないよう、避難所環境・ケアに中心をおいたものです。今ようやく世間の目が向けられ、それは本学の先見の明であり、10年間の研究・演習実績は有用性の証しでもあります。

## 本学教員が令和元年春の叙勲

本学の山川京子特任教授が、令和元年春の叙勲瑞宝双光章の勲章を受けられました。

先生は、38年間にわたり臨床現場の看護師として活躍され、平成24年から本学の教授（基礎看護・看護管理）として勤務し、看護師の修士課程への挑戦について、積極的に進められています。

今回は、多職種との連携やチーム医療を推進し、地域医療の質の向上に寄与したとして看護業務功労で瑞宝双光章を受章しました。

令和元年春の叙勲受章者と共に

## 講演会「日本赤十字社の国際活動の実際～バングラデシュ、フィリピンでの活動を通して」の開催

令和２年１月23日に、本学卒業生（学部・大学院）である北見赤十字病院の上岡文氏をお招きして、「日本赤十字社の国際活動の実際～バングラデシュ、フィリピンでの活動を通して」と題して講演会を開催し、97名が参加しました。

避難民救援事業や避難地区の様子、派遣中の日常生活の様子等、写真や動画を用いて話されたほか、今後の日本赤十字社の国際活動について話されました。

講演をする上岡氏

## IR推進室の設置

平成31年４月に適切な根拠に基づく内部質保証システムの点検・評価を行うため、根拠（資料、情報）を作成・提供する組織として、ＩＲ推進室およびＩＲ推進会議を設置しました。

IR推進室の事業として次の５つが盛り込まれています。

①教育、医療・福祉に関する最新情報の収集
②学生募集や在学歴のデータ収集及び分析
③学修成果のデータ収集及び分析
④学生の満足度や学修度のアンケート内容のデータ収集及び分析
⑤卒業生のデータ収集及び分析等

ＩＲ推進室の設置

ラーニング・コモンズ

## 教育研究等環境の整備

大学図書館に設けられたラーニング・コモンズ（２教室）の情報通信環境を整備しました。

大型モニター、ＰＣ、プリンター、高速ＬＡＮを設置し、自習やグループ学習がより使いやすくなるよう整備したほか、飲食についても、一部規則を緩和しました。

## 国家試験全員合格

本年度の国家試験（看護師、保健師、助産師（大学院））について、無事全員が合格しました。

本年度は、新カリキュラム変更後の第１回目の卒業生であり、教職員、学生一丸となって、補講や模擬試験を実施してきました。また、ラストスパートの時期に新型コロナウイルス感染症の心配もありましたが、全員の合格達成ができました。

例年恒例の出発式（教職員一同でお見送り）300㎞離れた試験会場へ出発

## 日本赤十字北海道看護大学運営懇話会の開催

令和元年12月４日に運営懇話会を開催しました。

北見市関係からは４名（市長、市企画部長、商工会議所会頭、社会福祉協議会会長）、教育関係からは、北海道高等学校校長会オホーツク副支部長、赤十字関係からは４名（北見病院院長、看護部長、奉仕団委員長、有功会会長）の計９名の外部委員の参加を頂き事業計画等について報告を行いました。参加者のご意見を参考にこれからも地域に求められる大学になるよう取り組んで参ります。

運営懇話会

## 外部講師研修会

令和２年１月29日、ＦＤ・ＳＤ推進委員会と実習検討委員会による、ＦＤ研修として、帝京平成大学 ヒューマンケア学部看護学科北川明教授をお招きして「発達障害傾向・パーソナリティ障害を抱える学生・スタッフの適切な対応」と題して研修会を実施しました。

研修にあたっては、学生に係る内容である事から、実習先である保健医療福祉関係者にご案内したところ80名の参加を頂き関心の高さがうかがえました。

外部講師研修会

「生きる」を支える人になる

# 日本赤十字秋田看護大学
# 日本赤十字秋田短期大学

設置学部等　〔大学〕看護学部／大学院　〔短期大学〕介護福祉学科

電　話　018-829-4000　住　所　秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3

学長
**安藤 広子**

本学は、明治29年の日本赤十字社秋田県支部救護看護婦養成から120年の歴史をもち、光明皇后とナイチンゲールの絵画を並べた「一対の額」が、図書館からの窓越しにロビーを往来する人びとを見守っています。本キャンパスは、看護大学と短期大学が併設しており、平成８年の短期大学開学当初より連動した形で運営をしております。

令和元年度は、組織再編成後の実施年度で、教育・研究、社会貢献、管理・運営に関するPDCAサイクルの促進、内部質保証に向けた各部署での検討が行われました。併行して、秋田キャンパスの将来構想について学内と学園とで継続して検討しています。

重点事業「地域共生社会の推進者を育成する」では、カリキュラム検討の他、「知事と県民の意見交換会；看護や福祉を学ぶ学生からの提言」や、卒業生と共に考えるパネルディスカッション「福祉職のキャリア形成と本学の可能性」において、学生の活発な意見が出されました。また、重点事業の「赤十字の理念に基づく教育の充実」では、災害救援研修に他大学の学生参加もあり、赤十字国際演習科目履修生の研修報告書は学習成果が反映されたものとなっており、学生の主体性が大いに発揮された年であったと思います。

## 看護大学開学10周年記念式典・講演会

平成31年４月26日、看護大学開学10周年記念式典が挙行されました。式典には来賓の方をはじめ、日ごろご支援をいただいている実習施設の皆さま、また、本学にゆかりのある方々をお招きしました。式典終了後には、「世界に広がる赤十字の国際支援～アフリカと中東の現場から～」と題して大阪赤十字病院渡瀬純一郎氏による記念講演が行われました。臨場感に溢れたお話は、赤十字の理念や活動を再認識する貴重な機会となりました。

看護大学開学10周年記念式典

## 学生の身を守る講習会

平成31年４月４日、秋田東警察署のご協力で「学生の身を守る研修会」を開催しました。これは学生たちが日常に潜むさまざまなリスクやトラブルに巻き込まれることなく安全で快活な学生生活を送れるように、自分の身を自分で守ることを目的に開催しているもので、新入生133名が参加しました。

学生の身を守る講習会

## 宣誓式

平成31年4月26日に宣誓式を本学体育館において挙行し、看護学部の3年生120名と、介護福祉学科の2年生21名が参加しました。宣誓式は、学内での学びを経て施設実習に臨む学生たちが、対人援助のプロフェッショナルになるために、自らの目標を再認識し誓いを新たにするセレモニーです。

宣誓式

## 赤十字キッズタウン

令和元年5月26日に本学を会場に、赤十字のお仕事体験イベント「赤十字キッズタウン2019」が開催されました。このイベントは、子供たちとその保護者の皆さまに、親子で一緒に赤十字施設のお仕事体験を通じて、赤十字の活動をよりよく知っていただくために、毎年この時期に開催されています。本学は地域貢献・国際交流委員会が秋田赤十字病院と合同で出展しました。とても楽しいイベントとなりました。

赤十字キッズタウン

## 夏のオープンキャンパス・秋のオープンキャンパス

令和元年7月21日に夏のオープンキャンパス、9月21日に秋のオープンキャンパスを実施し、県内外から多数の皆さまにご参加いただきました。体験実習、模擬授業、個別相談など、数多くのイベントで皆さまをお迎えしました。中でも本学と専用ブリッジでつながる秋田赤十字病院を基地病院とする「秋田県ドクターヘリ」の見学体験は大人気で、皆さまの関心の高さを実感しました。

## 災害救護訓練

令和元年9月25日、26日に災害救護訓練を実施しました。これは将来の看護師・介護福祉士である学生たちが、災害時に行う救護活動や避難所での支援活動の全体像と活動時における支援者の役割を理解し、将来、災害救護活動の推進者として成長できるように基礎的能力を培うことを目的として毎年実施しています。

災害救護訓練

## 看護学部合同就職説明会

令和元年9月27日に看護学部の合同就職説明会を行いました。県内外27の病院から、採用担当職員の方々が、それぞれの病院で活躍する卒業生たちと一緒に参加されました。学生たちは説明に熱心に聞き入り、各病院の勤務状況や院内教育の体制、福利厚生などの質問を投げかけ、将来の看護師としてのキャリアに対する関心と意識の高さがうかがえました。

## パネルディスカッション

令和2年2月26日に、パネルディスカッション「福祉領域における本学の役割と展望～福祉職のキャリア形成に係る本学へのニーズを卒業生とともに考える～」を開催しました。これは介護現場のニーズを知り、そのニーズに沿った「リカレント教育」の具現化をはかる目的で、卒業生4名を招いて行われました。各卒業生からは、キャリアを積み重ねていく過程での課題等が述べられました。

介護パネルディスカッション

Vision for Humanity―人道の実現に向けて

# 日本赤十字看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　03-3409-0875　住　所　東京都渋谷区広尾4-1-3

学長

守田 美奈子

令和元年に念願であったさいたま看護学部の開設が正式に認可されました。令和２年のさいたま看護学部の開学に伴い日本赤十字看護大学は、２つの学部をもつ大学として大きく発展します。それに向けて大学全体の再構築を図るため、令和元年度は大学組織や規定を見直すと同時に、２学部間での連携協力が円滑となるよう運営システムを整備しました。さいたま看護学部の新しい校舎では、オープンキャンパスを行い受験生から好評を得ることができました。また２学部の学生確保にむけて教職員が一丸となり、広報活動や入試業務を実施することができ、何とか一定の受験者を確保することができました。

学部教育では、聖心女子大学との包括協定の締結を行いました。主体的に思考し行動できる学生を育成するために、学ぶ機会や場の広がりに繋げたいと考えています。

大学院教育では、修士課程34名、博士後期課程10名、DNGL１名の学位取得者を輩出しました。共同災害看護学専攻は入学者募集を停止致しましたが、５大学と培ってきた教育体制、連携体制を継続できるような教育体制を検討中です。

## 聖心女子大学（渋谷区）との「連携・協力に関する基本方針」の締結

令和元年11月に聖心女子大学（渋谷区）との間で、多様な価値観にもとづく新たな価値の創造、両大学の持続的な発展に寄与することを目的として「連携・協力に関する基本方針」を締結しました。両大学のメインキャンパスは渋谷区広尾に隣接しており、学生・教職員の様々な活動、施設の相互利用等今後の連携・協力を進めていくこととし、令和２年から単位互換制度を開始する予定であります。

聖心女子大学との締結式

## 学生と教職員の地域貢献活動

令和元年８月には、渋谷区総合防災訓練「渋谷防災フェス2019」が開催され、本学教員が講演を行い、学生が救急方法の実演を行いました。また、渋谷区のオリンピック、パラリンピックに向けた文化プログラム「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」では正しい人助けの方法を伝授する企画に、学生と教職員が参加しました。

令和元年９月には、災害救護ボランティアサークルSKVの学部生とDNGL（５年一貫制博士課程共同災害看護学専攻）の大学院生が、早稲田大学の学生とともに、和歌山県湯浅町の防災フェスタに参加し、住民に対する教習等を行い、南海トラフ地震を想定した訓練にも参加しました。

地域貢献（MERRY SMILE SHIBUYA for 2020）

## 大学院

令和元年度は、博士後期課程看護学専攻から10名、看護学研究科修士課程国際保健助産学専攻から15名、同看護学専攻から21名（うちCNS専門看護師8コース修了者11名）、5年一貫制博士課程（共同災害看護学専攻）から1名、看護の将来を担う修了生を社会に送り出しました。さらなる教育の充実に向けて、カリキュラムの見直しを進めています。

## 日赤広尾地区防災プロジェクト

令和元年11月17日、渋谷区立広尾中学校で実施された渋谷氷川地区合同防災訓練に、日赤広尾地区災害プロジェクトの一員として学生と教職員が参加し、地域住民や中学生に対して防災に関わる訓練の指導などを行いました。

日赤広尾地区防災プロジェクトは、本学のほか医療センターや乳児院、幹部看護師研修センターなど、広尾地区の日本赤十字保健医療福祉と教育が一体となってケアを創造するケアリング・フロンティアのメンバーで構成されており、この日は消防署が実施する消防訓練等に加え、本学は応急救護訓練としてAED取扱訓練および三角巾訓練の指導を約1時間30分にわたり担当しました。

指導は本学教員のほか、災害救護ボランティアサークルSKVに所属する学生約20名も加わり、AED取扱訓練では約50名の参加者を小グループに分け、数分間のデモンストレーションを経て各グループで実施しました。

また、三角巾訓練ではけがの手当ての方法を、三角巾のほかネクタイや止血帯を使用する方法を指導しました。

## リサーチ・フェスタ2019

本学と赤十字施設は、実習・教育などを通してネットワークを得ております。このネットワークをさらに発展させることを目指し、関心領域が近い医療職者と研究者が協働研究を行うきっかけをつくることをねらいとして、日本赤十字社医療センターの看護研究発表会と合同開催とし、幅広い参加者との交流および、研究活動の推進を目指しています。

リサーチ・フェスタ

## 日赤出張暮らしの保健室

令和元年10月17日地域看護学教授1名と同領域の修士課程大学院生3名で都営渋谷東2丁目アパートの集会室を借用して、同アパートの住民を対象に血圧測定や健康相談、「風邪予防のポイント」としてミニレクチャーを行いました。

参加者は14名であったが健康相談については、住民のニーズが高く次年度も年2回程度開催する予定であります。

## 学生と共同制作した図書館広報冊子

本学図書館では、本や図書館が好きな学生の集まり「TBC(図書館ビューティークラブ)」の活動が活発です。これまで、選書ツアーや図書の宣伝のポップ作成など、積極的に行ってきました。今年度は、そのTBCと図書館とが協同して、小冊子『学生が選んだおすすめ本ーひとやすみ』を、保護者会の寄付金で2,000部を制作・発行しました。表紙イラストや文章はすべて学生が書いています。これからのTBCの活躍も大いに期待するところです。

学生と共同制作した図書館広報冊子

地球に寄り添う看護

# 日本赤十字豊田看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0565-36-5111　住　所　愛知県豊田市白山町七曲12-33

学長

**鎌倉 やよい**

本学は、昭和16年に遡る長い歴史の中で、平成16年に開学し、平成22年に大学院修士課程を開設いたしました。人道を基盤とした赤十字の思想を涵養する理念のもと、看護学基礎教育、大学院では高度な看護実践能力並びに研究・教育能力を育成する教育を提供してきました。

日本赤十字学園第三次中期計画（令和元年度～令和５年度）のもと、年度計画を立案し、学長の将来ビジョンに基づき、教学マネジメント力・教育力・研究力の育成を基盤とした施策を継続実施しました。具体的には、経営会議を中心にPDCAサイクルを運用し、教育の質を保証するために内部評価と外部評価を実施する等、努力してきました。

大学院修士課程については、昨年度改正した新カリキュラムを順調に開始し、本年度は看護学モデル・コア・カリキュラムを先取して、看護学部のカリキュラムを改正し、承認されました。また、私立大学等改革総合支援事業「タイプ１：特色ある教育の展開」「タイプ３：プラットフォーム」に採択され、年度計画に掲げた目標は概ね達成されました。

## 教育の質保証

看護学部のカリキュラム改正を行い、令和2年4月から新たな教育課程を開始します。新カリキュラムでは、プロフェッショナリズムの育成等を目的とした科目や環境問題と健康に関する科目を新設しました。また、本学の特徴として災害看護学や在宅看護学等の教育内容を強化し、赤十字の人道理念を実践できる看護専門職の育成を目指します。

大学院看護学研究科修士課程では、令和元年4月より認定看護管理者コースを新設した新教育課程を開始しました。修士課程の科目を活用した履修証明プログラムを改正し、短時間編成の職業実践力育成プログラム（BP）として文部科学省から認定されました。

## 学生活動

昭和34年９月26日・27日、東海地方は伊勢湾台風による豪的災害に見舞われました。そこで、令和元年同日の２日間にわたり、災害支援サークルDMACが本学の体育館にて避難所キャンプを行い、延べ25名が参加しました。リアルHUG（避難所運営ゲーム）では、南海トラフ地震発生を想定し、倫理面などを考慮しながらダンボールでベッドやトイレなどを作成し、限られた空間や物資の中での避難所生活を体験しました。

また、災害時に起こりうる被害を想定し、地域の中を自分の足で歩いて学内や避難所までのハザードマップを作成しました。このハザードマップを学内に掲示し、情報共有を行いました。

ダンボールベッドの作製

## 国際交流

平成30年度にタイ赤十字看護大学と大学間の国際交流協定を締結したことを踏まえ、令和元年7月に同大学学長をはじめ教員5名が来校しました。愛知国際病院ホスピス等の訪問や本学教員との共同研究に関する会議等を行い、両国の看護教育について交流する機会となりました。

また、12月には同大学2名の学生が来校し、授業見学や「Thai & Japanese Afternoon」などを行い、本学学生と交流しました。

タイ赤十字看護大学教員の訪問

## 地域との連携

ノロウイルス感染予防対策セミナーの様子

平成28年度に豊田市と「包括連携協定」を締結し、同市と共働により大学等の知見や教員の研究成果を活用したまちづくりに関する課題解決を図る取組み（大学・高専発研究提案）を行っています。令和元年度は、「豊田市内の高齢者介護施設の感染対策に関する実地調査と、調査に基づいた『イラストで理解する豊田市特製・感染対策マニュアル』の作製、および現場での指導、感染対策力の底上げ」に関する研究を提案し、採択されました。市内の特別養護老人ホームにて、インフルエンザやノロウイルス、新型コロナウイルス等の感染予防対策のセミナーを開催しました。

尾張旭市から委託を受けて、令和2年2月に生活の質の向上を目的に、今年で3回目になる高齢者の摂食嚥下障害予防事業「つばめ教室」を開催しました。また、豊田市の後援を受け、京都大学未来創成学国際研究ユニットとの共催事業として、地域住民の方を対象に「第3回こころの健康づくりシンポジウム」を開催しました。

## 赤十字の特色ある教育の実施

本学では、国際的に活躍する看護師育成のため、タイ・ミャンマーで「国際救援看護論実習」を実施し、タイ赤十字看護大学との交流やJICAの施設を訪問し、現地の医療や福祉の環境などを学びました。

また、英語力向上を目的に、イギリスの港町プリマスにて「英国語学研修」を実施しました。日本赤十字北海道看護大学の学生を含めた15名が、メイフラワー語学学校にて講義を受け、プリマス大学看護学部や英国赤十字社等を訪問しました。

タイでマラリアプロジェクトの見学

英国語学研修

## 私立大学等改革総合支援事業の推進

教育の質の向上に向けた特色ある教授・学習方法の展開を通じた教育機能の強化を促進する「特色ある教育の展開」（タイプ1）及び大学間、自治体・産業界等との連携を進めるためのプラットフォーム形成を通じた大学改革の推進を支援する「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」（タイプ3）に申請し、両者ともに採択されました。

赤十字の理念のもと、看護の知恵と心と技を育みます

# 日本赤十字広島看護大学


設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0829-20-2800　住　所　広島県廿日市市阿品台東1-2

学長

**小山 眞理子**

平成から令和への御代がわりの年に本学は開学20年を迎えました。

令和元年度までの20年間で、本学から日本赤十字社および地域の病院等の医療を支える看護人材2,887名が巣立っており、今後ともより質の高い教育の実現に取り組んでまいります。

具体的には、教育では、グローバル化への対応に加えて、社会変化や時代のニーズに応じた教育の充実を図るため、カリキュラム改正の検討を精力的に進めており、令和４年度からの移行に向けて、最終的な議論の段階に至りました。地域との連携については、引き続き、災害時の対応に関する公開講座や自治体行事への参画など、積極的に取り組んでまいります。

また、令和元年度においても、全国各地で「観測史上初」の災害が頻発しました。本学では、昨年度の豪雨災害時の経験をもとに、本年度から、よりスムーズに学生の安否を確認するシステムを導入いたしましたが、幸い、本年度は、その稼働をしなくて済んでいるところであります。しかし、その影響で本学での学びの証である学位記授与式を中止せざるを得なくなった新型コロナウイルス感染症のパンデミックをはじめ、今後とも様々な危機的事案が起こり得ることから、私どもといたしましては、一層の備えと、困難の回避と克服に関係各位との連携を密にし、一丸となって取り組んでまいります。

## 開学20年記念講演会の開催

本学は、開学20年を迎えた記念すべき本年度、国内外での看護活動に多大なご貢献をされている３名の方にお越しいただき、看護職をめざす学生達へのメッセージとして記念講演会を開催しました。（令和元年５月29日：第46回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章された名古屋第二赤十字病院副院長の伊藤明子氏、令和元年10月16日：日本赤十字社社長・日本赤十字学園大塚義治理事長、令和元年11月27日：看護師で日本初の副院長に就任された北海道医療大学名誉教授の石垣靖子氏）

学生からは、赤十字の大学に入って看護職を選んで本当によかった、国際看護ではその国の文化を尊重したかかわりが大切だと感じた、患者の尊厳を守るための看護師は一番近い存在と思ったなどの感想が寄せられ、大変貴重な講演会となりました。

開学20年記念講演　（写真上）大塚理事長
（写真下左）伊藤さま　（写真下右）石垣さま

## 赤十字の特色を活かした教育プログラム

昨年度に引き続き、日本赤十字社広島県支部の救護員実践研修を本学で実施しました。本学からも２年生・４年生の学生多数が参加し、体育館では実際の仮設救護所や避難所を想定し、学生自ら傷病者役になるなど、赤十字病院や日本赤十字社広島県支部の職員、赤十字ボランティアを中心とする救護員と一体となった訓練を実施することができました。また、１年次ERU研修にも30名の学生が参加し、国際救援活動の実際について体験を通して学ぶことができました。

このように、赤十字のネットワークを活かした教育プログラムによって、赤十字の一員としての自覚を育んでいます。

赤十字PGM（傷病者役を演じる学生）

## 地域貢献の推進

地域貢献は本学の柱のひとつであり、専門職や地域住民対象の公開講座、各種イベント参加を通じて大学の知見の地域還元活動を継続しています。令和元年度は、公開講座等の総事業41件と対前年３件増となり、参加者は延べ2,100名を超えました。「介護」や「防災」といったテーマでの公開講座は大変好評でした。

廿日市市教育委員会協賛　公開講座

## 国際交流(グローバル化)の推進

スイスの学生による学修成果発表

令和元年10月中旬から11月初旬までの約3週間、スイスのラ・ソース大学から学生2名の留学を受け入れました。留学生は大学での授業や実習に参加し、母性看護学、災害看護学、地域活動、日本の医療制度などについて学びました。そして、日本赤十字社の活動（医療事業、血液事業、国内災害救護、国際活動など）、HICAREプロジェクト（放射線被曝者医療国際協力推進協議会）、日本の伝統文化、平和への願いに対する広島の取組みについて学ぶなど、数多くの留学プログラムに参加しました。

最終日には、お世話になった地域の方々や在学生の前で、学修成果の発表を行いました。

なお、本学からは3月に留学生派遣予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して中止しました。同じく3月に連携推進のため本学を訪問予定であったフィリピン大学看護学部長の来校も急遽中止になりました。

## 赤十字と赤十字看護学教育の資料展示コーナーの充実

オープンスペースとなった赤十字資料コーナー

開学時から図書館横に設置されていた赤十字資料館の展示を①開学以来の20年を追加し、②赤十字における看護学教育の歴史と赤十字学園および本学のあゆみを含めた内容に修正しました。また、在学生や来訪者が気軽に見ることができるよう、1階の学生ホールに移設して、赤十字の理念・歴史や日本赤十字社の各事業を紹介するとともに、日本赤十字学園の教育の概要も紹介しています。

## 実践力を養成する看護教育(アセスメントテストの充実)

模擬患者養成講座修了者への修了証授与

看護実践能力の修得と自己の課題を明確にするため、地域の方々による模擬患者の協力を得ながら、各領域で演習授業を実施しています。さらに、客観的臨床能力試験OSCE（Objective Structured Clinical Examination）を実施しています。模擬患者の皆さんと学生との意見交換を行い、より実践に近づいた実習を行えるように研修会も行いました。また、各学年の実習前に看護実践能力に必要な知識等が一定基準に達しているかを評価するCBT（Computer Based Test）を全学年で実施しました。

## 大学院看護学研究科の取組み

修士課程では、平成30年度の新カリキュラム改正後、「専門看護師コース」では、最新の38単位の専門看護師教育課程の認定を受けたカリキュラムによる修了生を、今年度、初めて輩出しました。

また、大学院生が教育者としての研鑽を積む機会であるティーチングアシスタント（TA）制度の充実と、質向上研修の検討をし、TAハンドブックを作成することで、大学院生の教育能力の資質向上を図りました。

さらに、より充実した研究環境の整備を進めるために、日本赤十字学園の6大学合同でコクラン・ライブラリー（医学情報リソース）を採用し、博士課程院生を中心に活用が進みました。

一方、院生確保対策の一環として、卒業生・修了生を対象に「ホームカミングデイ」として、修士課程修了生2名による研修会を企画・実施しました。加えて、医療機関に勤務していて情報を得ることが難しい看護職の方に向けて、平日の夕方に広島市内において「大学院出前授業」を開講しました。

## 認定看護師教育課程（摂食・嚥下障害看護）

研修生が学部学生の演習に参加

摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程では、令和元年度は20名が修了し、平成21年度の開講以来、計279名の修了生を輩出しました。研修生は、開講中に高度な看護実践に必要なアセスメントと食事ケア技術を修得します。研修生は、看護学部の「基礎看護学」の演習で、脳梗塞の片麻痺患者の食事支援を看護学部生に指導を行いました。看護学生は、食事場面での姿勢調整、食事介助の方法を学びました。研修生は、学部生に「教える、伝える」「語り合う」ことにより、相互に学びを深めました。

また、研修生は、臨地実習において、専門性の高い看護を実践し、多くの患者さんと食べる喜びを体験しました。摂食・嚥下障害看護認定看護師として、高度看護実践、指導、相談の役割を担い、看護の質の向上をめざして全国で活躍しています。

ひとりを看る目、その目を世界へ

# 日本赤十字九州国際看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0940-35-7001　住　所　福岡県宗像市アスティ1-1

学長

**田村 やよひ**

本学では令和元年度、学部卒業生98名、修士課程９名、博士課程１名の修了者を世に送り出しました。学部は平成28年度カリキュラムの最初の卒業生であり、中でも５名の「国際看護コース」履修者が特筆されます。人道の精神を深く理解し、身に付けた卒業生・修了生の今後が大いに期待されます。大学院では、CNSコースの昨年度修了者が、クリティカルケア看護と在宅看護のCNS資格を取得できたことは大きな喜びでした。

また、AP事業は最終年度を迎え、ディプロマ・サプリメントの発行や学部教育と臨床とのシームレスな人材育成に向けた取組みを進めてきました。事業終了後も本学の委員会活動などで継続していけるように全教職員との成果の共有も一段と強化しました。

経営面では、３年後に大学評価を受審するため、教学マネジメントの強化に向けた組織の再編成に取り組み、来年度の実践に繋いでいます。

## 第47回フローレンス・ナイチンゲール記章受章記念講演会を開催

第47回フローレンス・ナイチンゲール記章を前学長である竹下喜久子氏が受章されたことを記念し、令和元年10月12日に受章記念講演を開催しました。竹下氏は、国内外の災害救護活動への画期的な取組み及び医療施設の看護師への実践教育などの功績が認められての受章となり、講演では「私の歩んだ道程（みち）」と題して、国内外における活動や臨床、教育におけるこれまでの道程を様々な経験とともにお話しいただきました。

第47回フローレンス・ナイチンゲール記章受章記念講演

## 国際看護コースから5名の修了生が誕生

学部において、将来、国際協力・協働の分野で日本の看護職のリーダーとして活躍し、変容するグローバル社会に貢献できる人材の育成を目的とした国際看護コースから、初となる修了生が５名誕生しました。

本コースでは、発展途上国の保健・福祉現場等への海外研修や留学生を迎えての研修も組み込まれています。7月には、協定校のラ・ソース大学より留学生２名を初めて迎えて、宗像市大島にて災害についての研修を行いました。

国際看護コースから5名の修了生が誕生

## 福岡未来創造プラットフォーム

福岡市を中心とする高等教育の振興と地域社会の活性化を目的に福岡都市圏に位置する15大学・自治体・産業界で「福岡未来創造プラットフォーム」を形成し、包括連携協定を締結しました。令和元年５月９日には、メディアに向けて発足経緯や今後の取組み等についての共同発表を行い、個々の資源を共有するとともに大学・自治体・産業界の垣根を越えた取組みの実現を目指しています。

福岡未来創造PF

## 地域交流

宗像市内の大学・高校と宗像市で組織する「大学のまち協議会」では、令和元年12月に学校と学校、学校と宗像市民との交流を目的としたイベント「ポップアップキャンパスinむなかた」を開催しました。大学生、高校生、市民を含め100名ほどが参加し、お互いの活動について知る機会を持ちました。パネルディスカッションでは、大学、高校が宗像市とできることについて意見を交わし、これからの地域貢献について学生が考える場となりました。

ポップアップキャンパスinむなかた

## 地域貢献

宗像市が主催する「むなかた子どもまつり」に参加し、市民の方に赤十字の救急法を体験してもらいました。

ボランティア学生６名と教職員４名で「キッズ救護服・ナース服コーナー」と「心肺蘇生法（AED）体験コーナー」を設置し、100名以上の子どもたちや保護者の方とふれあいました。講義で赤十字の救急法を学んだばかりの学生が、身につけた知識を市民に教えることで、さらに自身も学びを深めていました。

むなかた子どもまつり

## クリティカルケアと在宅看護のCNS誕生

平成29年度に新設した大学院の専門看護師（CNS）コースの昨年度修了者が、公益社団法人日本看護協会よりCNSとして認定されました。本学で初めてクリティカルケア看護のCNS１名と在宅看護のCNS１名が誕生しました。

現在は、精神看護学と老年看護学のCNSコース開設に向け、体制を整えています。

## JICA課題別研修「地域保健向上のための保健人材強化」を実施

令和２年2月17日より３月３日までの２週間、イラク、リベリア、モンゴル等10カ国から11名の研修生を受入れました。

研修生は講義を受けるだけでなく、保健医療関連施設や行政機関を訪問し意見交換を行ったり、宗像市の文化にふれたりしました。研修終盤では、本学の教員が10カ国の研修生に対し、研修で学んだことを自国で活かしていくためのアクションプラン作成指導を行い、最終日に発表会を行いました。

JICA課題別研修

学生の動向

## 1 入学者の状況（令和元年5月1日現在）

令和元年度の学部入学者数は、6大学で合わせて744人となりました。このうち、例年入学者の確保が厳しい状況にある介護福祉学科の入学者は21人でした。

また、大学院の入学者数は、修士課程80人、博士課程23人となりました。

（単位：人）

| 学校名 | 学部 | | | 大学院 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入学定員 | 合格者 | 入学者 | 課程 | 専攻 | 入学定員 | 合格者 | 入学者 |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 100 | 172 | 111 | 修士課程 | 看護学 | 16 | 10 | 9 |
| | | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 2 | 4 | 4 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 100 | 155 | 110 | 修士課程 | 看護学 | 12 | 6 | 6 |
| | | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 2 | 0 | 0 |
| 日本赤十字看護大学 | 130 | 313 | 141 | 修士課程 | 看護学 | 30 | 29 | 29 |
| | | | | | 国際保健助産学 | 15 | 15 | 14 |
| | | | | 博士課程 | 看護学 ※1 | 8 | 10 | 10 |
| | | | | | 共同災害看護学 ※2 | 2 | 1 | 1 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 120 | 394 | 131 | 修士課程 | 看護学 | 10 | 7 | 7 |
| | | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 2 | 3 | 3 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 125 | 229 | 127 | 修士課程 | 看護学 | 10 | 7 | 6 |
| | | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 2 | 2 | 2 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 100 | 221 | 124 | 修士課程 | 看護学 | 10 | 10 | 9 |
| | | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 2 | 3 | 3 |
| 学部合計 | 675 | 1,484 | 744 | 修士課程 | 看護学 | 88 | 69 | 66 |
| | | | | | 国際保健助産学 | 15 | 15 | 14 |
| | | | | | 合　計 | 103 | 84 | 80 |
| | | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 10 | 12 | 12 |
| | （参考）3年次編入<br>日本赤十字看護大学 | | | | 看護学 ※1 | 8 | 10 | 10 |
| | | | | | 共同災害看護学 ※2 | 2 | 1 | 1 |
| | 10 | 11 | 10 | | 合　計 | 20 | 23 | 23 |

大学はすべて看護学部、大学院はすべて看護学研究科
博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

（単位：人）

| 学校名 | 介護福祉学科 | | |
|---|---|---|---|
| | 入学定員 | 合格者 | 入学者 |
| 日本赤十字秋田短期大学 | 30 | 24 | 21 |

## 2 在学生の状況（令和元年5月1日現在）

令和元年度の在学生数は、6大学で合わせて学部学生が3,034人、大学院生は修士課程198人、博士課程106人となりました。また、短期大学では39人が在学していました。

（単位：人）

| 学校名 | 学部 | | 大学院 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 収容定員 | 在学生 | 課程 | 専攻 | 収容定員 | 在学生 |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 400 | 440 | 修士課程 | 看護学 | 32 | 24 |
| | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 6 | 12 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 400 | 443 | 修士課程 | 看護学 | 24 | 17 |
| | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 6 | 7 |
| 日本赤十字看護大学 | 540 | 595 | 修士課程 | 看護学 | 60 | 62 |
| | | | | 国際保健助産学 | 30 | 30 |
| | | | 博士課程 | 看護学 | 24 | 48 |
| | | | | 共同災害看護学 ※2 | 10 | 10 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 480 | 531 | 修士課程 | 看護学 | 20 | 21 |
| | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 6 | 10 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 500 | 567 | 修士課程 | 看護学 | 20 | 22 |
| | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 6 | 11 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 400 | 458 | 修士課程 | 看護学 | 20 | 22 |
| | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 6 | 8 |
| 学部合計 | 2,720 | 3,034 | 修士課程 | 看護学 | 176 | 168 |
| | | | | 国際保健助産学 | 30 | 30 |
| | | | | 合計 | 206 | 198 |
| | | | 博士課程 | 共同看護学 ※1 | 30 | 48 |
| | | | | 看護学 | 24 | 48 |
| | | | | 共同災害看護学※ ※2 | 10 | 10 |
| | | | | 合計 | 64 | 106 |

大学はすべて看護学部、大学院はすべて看護学研究科
博士課程のうち、 ※1 博士後期課程　※2 5年一貫制博士課程

（単位：人）

| 学校名 | 介護福祉学科 | |
|---|---|---|
| | 収容定員 | 在学生 |
| 日本赤十字秋田短期大学 | 60 | 39 |

## 3 卒業生の進路状況（令和2年4月1日現在）

令和元年度の学部の卒業生は715人であり、そのうち449人（62.8%）が赤十字病院に就職しました。また、修士課程の修了者73人のうち24人（32.9%）及び博士課程の修了者13人のうち6人（46.2%）が、赤十字病院・赤十字関係教育機関等に就職しました。なお、学部卒業生のうち半数以上の372人（52.0%）は、赤十字奨学金を受給しています。

### 【看護学部】

（単位：人）

| 学校名 | 卒業者数 | 就職者 | | | | | 進学者（専門学校を含む） | 就職・進学以外の進路者 | 進路未定者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 合計 | 内訳 | | | | | | |
| | | | 赤十字病院（%は対卒業者数） | | 赤十字以外の病院 | その他（行政等） | | | |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 94 | 92 | 72 | 76.6% | 16 | 4 | 2 | 0 | 0 |
| （うち赤十字奨学生） | 68 | 66 | 66 | | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 118 | 110 | 61 | 51.7 | 48 | 1 | 7 | 0 | 1 |
| （うち赤十字奨学生） | 46 | 46 | 46 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字看護大学 | 152 | 143 | 107 | 70.4 | 34 | 2 | 7 | 2 | 0 |
| （うち赤十字奨学生） | 97 | 95 | 95 | | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 129 | 120 | 91 | 70.5 | 24 | 5 | 5 | 4 | 0 |
| （うち赤十字奨学生） | 83 | 79 | 79 | | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 124 | 120 | 63 | 50.8 | 49 | 8 | 1 | 3 | 0 |
| （うち赤十字奨学生） | 44 | 43 | 41 | | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 98 | 91 | 55 | 56.1 | 36 | 0 | 7 | 0 | 0 |
| （うち赤十字奨学生） | 34 | 33 | 27 | | 6 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 合計 | 715 | 676 | 449 | 62.8 | 207 | 20 | 29 | 9 | 1 |
| うち赤十字奨学生合計 | 372 | 362 | 354 | 95.2 | 7 | 1 | 7 | 3 | 0 |

※「就職者」と「進学者」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「卒業者数」とは一致しない場合がある。

### 【短期大学　介護福祉学科】

（単位：人）

| 学校名 | 卒業者数 | 就職者 | | | | | | | 進学者 | 就職・進学以外の進路者 | 進路未定者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 合計 | 内訳 | | | | | | | | |
| | | | 赤十字病院（%は対卒業者数） | | 赤十字社会福祉施設等 | 赤十字以外の医療施設 | 赤十字以外の社会福祉施設等 | その他 | | | |
| 日本赤十字秋田短期大学 | 18 | 17 | 0 | 0.0% | 0 | 0 | 17 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| （うち赤十字奨学生） | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※「就職者」と「進学者」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「卒業者数」とは一致しない場合がある。

## 【大学院】

### (修士課程)

(単位:人)

| 学校名 | 修了者数 | 就職者 合計 | 就職者 内訳 医療機関 赤十字病院(%は対卒業者数) | | 就職者 内訳 医療機関 赤十字以外の病院 | 就職者 内訳 その他(行政・教育施設等) 赤十字関係 | 就職者 内訳 その他(行政・教育施設等) 赤十字以外 | 進学者 赤十字関係 | 進学者 赤十字以外 | 進路未定者(就職・進学以外の進路含む) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本赤十字北海道看護大学 | 11 | 11 | 5 | 45.5% | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 2 | 2 | 2 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 5 | 5 | 1 | 20.0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字看護大学 | 34 | 32 | 10 | 29.4 | 17 | 1 | 4 | 0 | 0 | 2 |
| (うち赤十字奨学生) | 2 | 2 | 2 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 5 | 4 | 1 | 20.0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 7 | 7 | 2 | 28.6 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 11 | 11 | 2 | 18.2 | 7 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 73 | 70 | 21 | 27.8 | 35 | 3 | 11 | 0 | 0 | 3 |
| うち赤十字奨学生合計 | 4 | 4 | 4 | 100.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※「就職者」と「進学者」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「修了者数」とは一致しない場合がある。

### (博士課程)

(単位:人)

| | 学校名 | 修了者数 | 就職者 合計 | 就職者 内訳 医療機関 赤十字病院(%は対卒業者数) | | 就職者 内訳 医療機関 赤十字以外の病院 | 就職者 内訳 その他(行政・教育施設等) 赤十字関係 | 就職者 内訳 その他(行政・教育施設等) 赤十字以外 | 進学者 赤十字関係 | 進学者 赤十字以外 | 進路未定者(就職・進学以外の進路含む) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 博士後期課程 | 日本赤十字北海道看護大学 | 1 | 1 | 0 | 0.0% | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 日本赤十字秋田看護大学 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 日本赤十字看護大学 | 10 | 9 | 0 | 0.0 | 0 | 5 | 4 | 0 | 0 | 1 |
| | (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 日本赤十字豊田看護大学 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 日本赤十字広島看護大学 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 日本赤十字九州国際看護大学 | 1 | 1 | 0 | 0.0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (うち赤十字奨学生) | 1 | 1 | 0 | | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小計 | 12 | 11 | 0 | 0.0 | 1 | 6 | 4 | 0 | 0 | 1 |
| | うち赤十字奨学生小計 | 1 | 1 | 0 | 0.0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5年一貫制博士課程 | 日本赤十字看護大学 | 1 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小計 | 1 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | うち赤十字奨学生小計 | 0 | 0 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | | 13 | 11 | 0 | 0.0 | 1 | 6 | 4 | 0 | 0 | 2 |
| うち赤十字奨学生合計 | | 1 | 1 | 0 | 0.0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※「就職者」と「進学者」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「修了者数」とは一致しない場合がある。

## 4 6大学における新卒者の各国家試験の平均合格率

(保健師・助産師・看護師 令和2年3月19日；介護福祉士 令和2年3月25日発表)

6大学における各国家試験の新卒者の平均合格率は、看護師国家試験で98.2%、助産師国家試験100%、保健師国家試験98.7%及び介護福祉士国家試験100%といずれも高い水準となりました。引き続き各大学では、合格率100%を目指し、教育・指導を強化することとしています。

### ●第109回看護師国家試験

(単位:人)

| 学校名 | 合計 | | | 新卒 | | | 既卒 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 97 | 95 | 97.9% | 94 | 94 | 100.0% | 3 | 1 | 33.3% |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 118 | 115 | 97.5 | 118 | 115 | 97.5 | 0 | 0 | — |
| 日本赤十字看護大学 | 148 | 147 | 99.3 | 145 | 145 | 100.0 | 3 | 2 | 66.7 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 132 | 127 | 96.2 | 129 | 125 | 96.9 | 3 | 2 | 66.7 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 129 | 124 | 96.1 | 124 | 121 | 97.6 | 5 | 3 | 60.0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 102 | 98 | 96.1 | 98 | 95 | 96.9 | 4 | 3 | 75.0 |
| **合計** | **726** | **706** | **97.2** | **708** | **695** | **98.2** | **18** | **11** | **61.1** |

### ●第103回助産師国家試験

(単位:人)

| 学校名 | 合計 | | | 新卒 | | | 既卒 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 日本赤十字北海道看護大学大学院 | 3 | 3 | 100.0% | 3 | 3 | 100.0% | 0 | 0 | — |
| 日本赤十字秋田看護大学大学院 | 5 | 5 | 100.0 | 5 | 5 | 100.0 | 0 | 0 | — |
| 日本赤十字看護大学大学院 | 10 | 10 | 100.0 | 10 | 10 | 100.0 | 0 | 0 | — |
| 日本赤十字九州国際看護大学大学院 | 6 | 6 | 100.0 | 6 | 6 | 100.0 | 0 | 0 | — |
| **計(大学院)** | **24** | **24** | **100.0** | **24** | **24** | **100.0** | **0** | **0** | — |
| 日本赤十字広島看護大学（学部） | 10 | 10 | 100.0 | 10 | 10 | 100.0 | 0 | 0 | — |
| **合計** | **34** | **34** | **100.0** | **34** | **34** | **100.0** | **0** | **0** | — |

### ●第106回保健師国家試験

(単位:人)

| 学校名 | 合計 | | | 新卒 | | | 既卒 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 20 | 20 | 100.0% | 19 | 19 | 100.0% | 1 | 1 | 100.0% |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 59 | 54 | 91.5 | 50 | 49 | 98.0 | 9 | 5 | 55.6 |
| 日本赤十字看護大学 | 20 | 20 | 100.0 | 20 | 20 | 100.0 | 0 | 0 | — |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 22 | 22 | 100.0 | 22 | 22 | 100.0 | 0 | 0 | — |
| 日本赤十字広島看護大学 | 30 | 29 | 96.7 | 30 | 29 | 96.7 | 0 | 0 | — |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 17 | 17 | 100.0 | 17 | 17 | 100.0 | 0 | 0 | — |
| **合計** | **168** | **162** | **96.4** | **158** | **156** | **98.7** | **10** | **6** | **60.0** |

### ●第32回介護福祉士国家試験（新卒）

(単位:人)

| 学校名 | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
|---|---|---|---|
| 日本赤十字秋田短期大学 | 18 | 18 | 100.0% |

**教育活動の動向**

各大学においては、学生のニーズに配慮した質の高い教育への取組みを実施しています。また、日本赤十字秋田短期大学では、医療・福祉の現場で活躍できる介護福祉士教育が行われています。

## 1 遠隔教育システムを用いた連携

遠隔教育システムを活用し、平成26年度から日本赤十字看護大学が他の国公立の４大学と連携した「５年一貫制博士課程共同災害看護学専攻」を開設し、災害看護のグローバルリーダーの養成を行っています。

平成28年度から、北海道、秋田、豊田、広島、九州の５看護大学で「大学院看護学研究科共同看護学専攻（博士後期課程）」を設置し、当学園専用の光回線で結ぶ遠隔教育システムを用いた教育が実施されています。令和元年度は、これまでに蓄積してきた赤十字の教育・研究の資源や成果を１つの「共同教育課程」を通じて有機的に機能させ、看護の発展に寄与できる研究者、教育者、実践者の養成を目指しています。

## 2 赤十字病院等と連携した臨地実習

各大学では、臨地実習科目の約7割、多い大学では8割以上を赤十字病院等と連携して行っています。赤十字病院では、看護教員資格を取得可能な研修や臨地実習指導者養成講習会などの教育・指導に関する研修を修了した者が師長で9割強、係長で5割近くおり、質の高い臨地実習環境が提供されています。

## 3 大学院における専門看護師（CNS）教育課程の推進

保健・医療・福祉の発展に貢献し、看護実践の質の向上を図ることに寄与できる高度専門職業人としての看護師を育成するため、全看護大学大学院において、専門看護師教育課程を開設しています。

令和元年度は、6看護大学で合計16人が同教育課程を修了しました。なお当専門看護師教育課程は、少子高齢社会や医師不足を背景に、これまでにない看護への社会からの高まりを受け、26単位教育については令和6年度からすべて38単位教育に移行する予定としています。

### ●専門看護師（CNS）教育課程を設置する大学

（単位：人）

| 学　校　名 | 教育課程名 | 日本看護系大学協議会認定単位 | 修了者数 |
|---|---|---|---|
| 日本赤十字 北海道看護大学大学院 | がん看護 | 26 | 0 |
| | 慢性看護 | 26 | 1 |
| | 精神看護 | 26 | 0 |
| 日本赤十字 秋田看護大学大学院 | がん看護 | 38 | 0 |
| | 精神看護 | 38 | 0 |
| 日本赤十字 看護大学大学院 | がん看護 | 38 | 0 |
| | 小児看護 | 38 | 2 |
| | 慢性看護 | 38 | 2 |
| | クリティカルケア看護 | 38 | 1 |
| | 老年看護 | 38 | 1 |
| | 精神看護 | 38 | 1 |
| | 在宅看護 | 38 | 3 |
| | 災害看護 | 38 | 1 |
| 日本赤十字 豊田看護大学大学院 | 母性看護 | 26 | 0 |
| | 精神看護 | 26 | 0 |
| | | 38 | 0 |
| | 小児看護 | 26 | 0 |
| | | 38 | 0 |
| 日本赤十字 広島看護大学大学院 | がん看護 | 26 | 0 |
| | | 38 | 2 |
| | 小児看護 | 26 | 1 |
| | | 38 | 0 |
| | 精神看護 | 26 | 0 |
| | | 38 | 0 |
| | 災害看護 | 26 | 0 |
| | | 38 | 0 |
| 日本赤十字 九州国際看護大学院 | クリティカルケア看護 | 38 | 1 |
| | 在宅看護 | 38 | 0 |
| 合　計 | — | | 16 |

※各大学とも看護学研究科看護学専攻修士課程に設置
注）CNS: Certified Nurse Specialist

## 4 認定看護管理者（CNA）教育課程

3看護大学大学院（日看大・豊田・広島）では、認定看護管理者の認定審査を受験できるコース等を設置して資格取得に向けた教育を行っており、令和元年度は6人が同コースを修了しました。

### ●認定看護管理者（CNA）認定審査の受験資格が取得可能な大学

（単位：人）

| 学　校　名 | 領域・分野 | 修了者数 |
|---|---|---|
| 日本赤十字 看護大学大学院 | 看護管理学領域 | 2 |
| 日本赤十字 豊田看護大学大学院 | 看護管理学 認定看護管理者コース | 0 |
| 日本赤十字 広島看護大学大学院 | 看護教育・管理学分野 （教育・研究者コース） | 4 |
| 合　計 | — | 6 |

※各大学とも看護学研究科看護学専攻修士課程に設置
注）CNA: Certified Nurse Administrator

## 5 認定看護師（CN）資格取得に向けた取組み

社会のニーズに対応した、より質の高い看護実践を提供できる看護師を育成するために、令和元年度は日本赤十字広島看護大学において認定看護師教育課程を開講し、20人が同課程を修了しました。

### ●認定看護師（CN）教育課程を開設する大学

（単位：人）

| 学　校　名 | 教育課程名 | 修了者数 |
|---|---|---|
| 日本赤十字広島看護大学（ヒューマンケアリングセンター） | 摂食・嚥下障害看護 | 20 |

※休講中の課程は除く
注）CN: Certified Nurse

研究活動の動向

当学園が設置する6看護大学・1短期大学では、災害・国際看護などの看護学に関する研究、看護教育に関する研究、赤十字に関する研究など、各教員の専門性を活かした研究への取組みが行われました。

## 1 学園基金等による研究活動助成

「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」では、赤十字に関する研究として2件の応募があり、全件を採択しました。平成30年度からの継続研究8件及び平成30年度からの繰り越し事業2件を合わせ、合計12件の研究助成を決定し、6,722千円を交付しました。

教員の教育・研究活動を推進するための「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援については、3件の応募があり、2件を採択しました。平成30年度からの継続研究3件を合わせ、合計5件の研究助成を決定し、2,543千円を交付しました。

**●令和元年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」による支援事業の状況**

**【新規】**

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字秋田看護大学 | 被虐待児を対象とした『権利擁護病棟』開設の可能性の検討 | R1 |
| 日本赤十字看護大学 | インドネシア共和国における看護系教育機関での災害看護教育の充実に向けて<br>～教員の教育方法の検討～ | R1 ～ R2 |
| 2 大学 2 件 | | |

**【継続】**

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字看護大学 | 原発災害により長期避難した住民への健康支援活動に携わった看護師の体験 | H30 ～ R1 |
| | 赤十字の国際活動を行う看護師育成ー国際ラダーの評価と活用の実態 | H30 ～ R1 |
| | 大学院におけるクリニカル・ナース・リーダー（CNL）養成プログラムの導入の検討 | H30 ～ R1 |
| | 実習指導者研修会を受講した看護師の実習指導者としての成長 | H30 ～ R1 |
| | 看護部の理念を具現化する「セルフケア支援」を行う看護師を育成するプロジェクトの検討 | H30 ～ R1 |
| | 自然の回復過程を整える「熱布バックケア」普及プロジェクト | H30 ～ R1 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 表情看護学という新たな学問の構築を目指した基礎研究 | H30 ～ R1 |
| 日本赤十字広島看護大学 | Appreciative Inquiry を活用した中堅看護職のリーダーシップ能力開発プログラムの検討 | H30 ～ R1 |
| 3 大学 8 件 | | |

**【平成30年度事業のうち令和元年度へ繰り越した事業】**

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字北海道看護大学 | 共同教育課程でのテレビ会議システムおよびインターネットを介した遠隔授業・個別指導の教育効果に関する基礎的研究 | H30 ～ R1 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 中小規模病院における看護記録の質改善を目指した記録委員会への活動支援 | H30 ～ R1 |
| 2 大学 2 件 | | |

●令和元年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金」による支援事業の状況

【新規】

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字看護大学 | ウガンダ共和国における学童肥満予防プログラム開発ワークショップの実施と評価 | R1 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | “ 赤十字 ” に対する社会的イメージの研究 | R1 |
| 2 大学 2 件 | | |

【継続】

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字秋田看護大学 | 農村地域高齢者の社会的相互扶助に根ざした農村地域型保健活動指標の開発と検証－農村における保健師活動と地域づくり－ | H30 ～ R1 |
| | がん相談に携わる看護師の「がん就労者」の就労支援の構造とプロセス－包括的就労支援における看護師の役割に焦点を当てて－ | H30 ～ R1 |
| | 高齢者および家族が退院後の療養生活を決定していく意思決定過程の構造 | H30 ～ R1 |
| 1 大学 3 件 | | |

## 2 科学研究費等競争的外部資金に係る申請・採択状況

各大学は、研究活動の活性化のため、科学研究費等競争的外部資金への応募を行いました。令和元年度は、6看護大学・1短期大学で合計104件（前年度126件）の新規応募を行い、26件（24.0%）が採択されています（前年度33件）。

助成金額のうち、「直接経費」の合計額は90,817千円となっており、そのうち「研究代表者」として獲得した金額は82,918千円（91.3%、前年度73.1%）でありました。

●令和元年度科学研究費等競争的外部研究資金に係る申請・採択状況

【大学別採択件数等】

（単位：件）

| 学　校　名 | 研究代表者 | | | | 研　究　分担者 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 新　規 | | 継　続 | 合　計 | |
| | 申　請 | 採　択 | | | |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 24 | 0 | 6 | 6 | 5 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 14 | 3 | 4 | 7 | 0 |
| 日本赤十字看護大学 | 22 | 10 | 15 | 25 | 14 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 17 | 2 | 16 | 18 | 13 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 13 | 7 | 6 | 13 | 7 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 14 | 4 | 9 | 13 | 5 |
| 日本赤十字秋田短期大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| **合　　計** | **104** | **26** | **56** | **82** | **44** |

【大学別助成金額】

（単位：千円）

| 学　校　名 | 直接経費 | | | | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 研究代表者 | | 研究分担者 | 小　計 | | |
| | 新　規 | 継　続 | | | | |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 0 | 17,122 | 800 | 17,922 | 3,765 | 21,687 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 1,446 | 2,400 | 0 | 3,846 | 1,080 | 4,926 |
| 日本赤十字看護大学 | 13,800 | 18,700 | 2,779 | 35,279 | 10,344 | 45,623 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 1,700 | 8,700 | 1,690 | 12,090 | 3,627 | 15,717 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 5,500 | 5,000 | 980 | 11,480 | 3,444 | 14,924 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 4,200 | 4,350 | 1,650 | 10,200 | 3,060 | 13,260 |
| 日本赤十字秋田短期大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| **合　　計** | **26,646** | **56,272** | **7,899** | **90,817** | **25,320** | **116,137** |

○継続研究には、他学園から当学園へ異動してきた者の継続研究も含む。　○赤十字と看護・介護に関する研究助成、教育・研究及び奨学費基金にかかる教育・研究事業は除く。
○「研究分担者」とは、他の学校法人又は当学園他校の教職員との共同研究において、研究代表者ではない場合である。
○新規研究には、育児休暇取得に伴い補助金留保となっているものも含む。　○新規研究には、前所属施設で申請されたものも含む。

## 奨学金の受給状況

6看護大学・1短期大学において、日本赤十字社各支部・病院、日本赤十字社看護師同方会、日本学生支援機構及び自治体等の158機関から、全学生の69.0%にあたる2,333人（実人数）〔延べ3,257人〕が奨学金を受けました。（学部（科）の在学生73.8%、大学院在学生20.1%が受給）

そのうち、日本赤十字社各支部・病院からは、奨学金受給学生2,333人の56.0%にあたる1,307人が奨学金を受給しました。

また、6看護大学・1短期大学における奨学金の受給総額は、22億5,688万円で、一人あたり（実人数）の受給額は学部で約95万円、大学院では約113万円となりました。

**●赤十字奨学金の大学別受給状況（令和元年度在学生の実績）** ※赤十字奨学金を受給している場合に○を付しています。

**【支部からの受給状況】**

| 支部名 | 日本赤十字北海道看護大学 | 日本赤十字秋田看護大学 | 日本赤十字看護大学 | 日本赤十字豊田看護大学 | 日本赤十字広島看護大学 | 日本赤十字九州国際看護大学 | 支部名 | 日本赤十字北海道看護大学 | 日本赤十字秋田看護大学 | 日本赤十字看護大学 | 日本赤十字豊田看護大学 | 日本赤十字広島看護大学 | 日本赤十字九州国際看護大学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | ○ | | | | | | 滋賀県 | | | | | | |
| 青森県 | | ○ | | | | | 京都府 | | | | | | |
| 岩手県 | | | | | | | 大阪府 | | | ○ | | ○ | ○ |
| 宮城県 | | | | | | | 兵庫県 | | | | | | ○ |
| 秋田県 | | | | | | | 奈良県 | | | | | | |
| 山形県 | | | | | | | 和歌山県 | | | | | | |
| 福島県 | | ○ | | | | | 鳥取県 | | | | | | |
| 茨城県 | | | ○ | | | | 島根県 | | | | | ○ | |
| 栃木県 | | | ○ | | | | 岡山県 | | | | | | |
| 群馬県 | | | ○ | | | | 広島県 | | | | | | |
| 埼玉県 | | | ○ | | | | 山口県 | | | | | | ○ |
| 千葉県 | ○ | ○ | ○ | | | | 徳島県 | | | | | | |
| 東京都 | | | | | | | 香川県 | | | | | | |
| 神奈川県 | | | ○ | | | | 愛媛県 | | | | | | |
| 新潟県 | | | ○ | | | | 高知県 | | | | | | |
| 山梨県 | | | ○ | | | | 福岡県 | | | | | | ○ |
| 富山県 | | | | ○ | | | 佐賀県 | | | | | | ○ |
| 石川県 | | | | ○ | | | 長崎県 | | | | | | ○ |
| 福井県 | | | | ○ | | | 熊本県 | | | | | | ○ |
| 長野県 | | | | ○ | | | 大分県 | | | | | | ○ |
| 岐阜県 | | | | ○ | | | 宮崎県 | | | | | | ○ |
| 静岡県 | | | | ○ | | | 鹿児島県 | | | | | | ○ |
| 愛知県 | | | | ○ | | | 沖縄県 | | | | | | ○ |
| 三重県 | | | | ○ | | | 合計 | 2 | 3 | 9 | 8 | 2 | 11 |

【医療施設からの受給状況】

| | 医療施設名 | 日本赤十字北海道看護大学 | 日本赤十字秋田看護大学 | 日本赤十字看護大学 | 日本赤十字豊田看護大学 | 日本赤十字広島看護大学 | 日本赤十字九州国際看護大学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 日本赤十字社医療センター | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 2 | 旭川赤十字病院 | | | | | | |
| 3 | 伊達赤十字病院 | | | | | | |
| 4 | 釧路赤十字病院 | | | | | | |
| 5 | 北見赤十字病院 | | | | | | |
| 6 | 栗山赤十字病院 | | | | | | |
| 7 | 浦河赤十字病院 | | | | | | |
| 8 | 小清水赤十字病院 | | | | | | |
| 9 | 置戸赤十字病院 | | | | | | |
| 10 | 函館赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 11 | 清水赤十字病院 | | | | | | |
| 12 | 八戸赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 13 | 盛岡赤十字病院 | | | | | | |
| 14 | 仙台赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 15 | 石巻赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 16 | 秋田赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 17 | 福島赤十字病院 | ○ | | ○ | | | |
| 18 | 水戸赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 19 | 古河赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 20 | 芳賀赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 21 | 那須赤十字病院 | | | | | | |
| 22 | 足利赤十字病院 | | | | | | |
| 23 | 前橋赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 24 | 原町赤十字病院 | | | | | | |
| 25 | さいたま赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 26 | 小川赤十字病院 | | | | | | |
| 27 | 深谷赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 28 | 成田赤十字病院 | | ○ | ○ | | | ○ |
| 29 | 武蔵野赤十字病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 30 | 大森赤十字病院 | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| 31 | 葛飾赤十字産院 | | | ○ | | | |
| 32 | みなと赤十字病院 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 33 | 秦野赤十字病院 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 34 | 相模原赤十字病院 | | ○ | ○ | | | |
| 35 | 長岡赤十字病院 | | ○ | ○ | | | |
| 36 | 山梨赤十字病院 | | | | | | |
| 37 | 富山赤十字病院 | | | | | | |
| 38 | 金沢赤十字病院 | | | | | | |
| 39 | 福井赤十字病院 | | | | ○ | | |
| 40 | 長野赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 41 | 諏訪赤十字病院 | | | | ○ | | |
| 42 | 安曇野赤十字病院 | | | | ○ | | |
| 43 | 川西赤十字病院 | | | | | | |
| 44 | 下伊那赤十字病院 | | | | | | |
| 45 | 飯山赤十字病院 | | | | | | |

| | 医療施設名 | 日本赤十字北海道看護大学 | 日本赤十字秋田看護大学 | 日本赤十字看護大学 | 日本赤十字豊田看護大学 | 日本赤十字広島看護大学 | 日本赤十字九州国際看護大学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 46 | 高山赤十字病院 | | | | | | |
| 47 | 岐阜赤十字病院 | | | | ○ | | |
| 48 | 静岡赤十字病院 | ○ | | ○ | ○ | | |
| 49 | 浜松赤十字病院 | | | | ○ | ○ | |
| 50 | 伊豆赤十字病院 | | | | | | |
| 51 | 引佐赤十字病院 | | | | | | |
| 52 | 裾野赤十字病院 | | | | | | |
| 53 | 名古屋第一赤十字病院 | | | | ○ | | ○ |
| 54 | 名古屋第二赤十字病院 | | | | ○ | | ○ |
| 55 | 伊勢赤十字病院 | ○ | | ○ | ○ | | ○ |
| 56 | 大津赤十字病院 | | | | | | ○ |
| 57 | 大津志賀赤十字病院 | | | | | | |
| 58 | 長浜赤十字病院 | | | | | | |
| 59 | 京都第一赤十字病院 | | | | | ○ | ○ |
| 60 | 京都第二赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 61 | 舞鶴赤十字病院 | | | | | | |
| 62 | 大阪赤十字病院 | | | | | | |
| 63 | 高槻赤十字病院 | | | | | | |
| 64 | 姫路赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 65 | 多可赤十字病院 | | | | | | |
| 66 | 神戸赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 67 | 日本赤十字社和歌山医療センター | | ○ | | | ○ | ○ |
| 68 | 鳥取赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 69 | 松江赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 70 | 益田赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 71 | 岡山赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 72 | 岡山玉野赤十字病院 | | | | | | |
| 73 | 広島原爆赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 73 | 庄原赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 74 | 三原赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 75 | 山口赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 76 | 小野田赤十字病院 | | | | | | |
| 77 | 徳島赤十字病院 | | | | | ○ | ○ |
| 78 | 高松赤十字病院 | | | | | ○ | ○ |
| 79 | 松山赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 80 | 高知赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 81 | 福岡赤十字病院 | | | | | | ○ |
| 82 | 今津赤十字病院 | | | | | | |
| 83 | 嘉麻赤十字病院 | | | | | | ○ |
| 84 | 唐津赤十字病院 | | | | | | |
| 85 | 日本赤十字社長崎原爆赤十字病院 | | | | | | |
| 86 | 日本赤十字社長崎諫早赤十字病院 | | | | | | |
| 87 | 熊本赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 88 | 大分赤十字病院 | | | | | | |
| 89 | 鹿児島赤十字病院 | | | | | | ○ |
| 90 | 沖縄赤十字病院 | | | | | | |
| | 合計 | 8 | 17 | 16 | 10 | 22 | 16 |

## 日本赤十字国際人道研究センターの動向

日本赤十字国際人道研究センター（英文名Japanese Red Cross Institute for Humanitarian Studies）は、当学園が設置する6大学、1短期大学の教育研究の専門人材を活かした人道問題に関する学術的な拠点として、調査・研究事業等を実施することを目的に、平成23年4月、日本赤十字看護大学内に日本赤十字社の協力を得て、開設されました。

**主な事業内容**

- 国際赤十字（日本赤十字社を含む。以下同じ。）の歴史・史料に関する調査研究
- 国際赤十字の活動及び事業に関する調査研究
- 国際人道法の普及及び調査研究に必要な事業
- 国際赤十字関係機関・団体等との学術研究の連携・協力
- 看護大学・短期大学が行う調査研究の支援

### 令和元年度の研究活動

### 1 「人道研究ジャーナル」Vol.9の刊行

赤十字の歴史や人道問題を取り巻く諸課題について特集を組んで刊行しました。

主な特集記事は、①ジュネーヴ諸条約成立70周年、②被爆75年の広島・長崎から、③ナイチンゲール生誕200年など。

「人道研究ジャーナル」Vol.9

### 2 講演会の開催

日本赤十字国際人道研究センター主催講演会「死と向き合う支援～ 臨床宗教師の誕生と役割」を開催、一般の方々を中心に約３０名が聴講しました。

**［日　時］**
令和元年11月7日（木）17:00～19:00
**［講演者］**
鈴木 岩弓氏
（東北大学教養教育院総長特命教授・日本民俗学会会長）
**［会　場］**
日本赤十字看護大学201講義室

講演会

**［講演概要］**

**臨床宗教師のスピリチュアルな支援とはいかなるものかについて講演。**

いわゆる宗教者と臨床宗教師との違いなどを踏まえて、超宗派・超宗教的な立場で、他者（被災者やホスピスの患者さんなど）の信仰に寄り添うものとして臨床宗教師が位置付けられました。

## 3 教育・啓発用資材の開発・製作

### 「ギュスターフ・モアニエ伝」の刊行

元赤十字国際委員会理事フランソワ・ブニョン著『ギュスターフ・モアニエ伝』(2011)の本邦初の翻訳(廣渡 太郎 研究員　日本赤十字秋田看護大学教授訳)を刊行しました。

アンリー・デュナンとともに赤十字の創設メンバーとなり、赤十字の組織化とジュネーヴ条約の推進において中心となって貢献したモアニエの生涯と功績を伝えます。

赤十字各施設や関係者向けに10,000部を作成し送付しました。

ギュスターフ・モアニエ伝

## 4 日本赤十字社の歴史史料調査・収集

### 1 戦時救護看護婦への聞き取り調査

日中戦争及び第二次世界大戦に従軍した元日赤看護婦 高橋とよ氏については、ご本人はすでに亡くなられていますが、三女の佐藤三代子氏への聞き取りを研究員が実施し、先行文献にない情報なども含め、調査結果を「病院船と横須賀海軍通信学校での救護」と題して、「人道ジャーナル」Vol.10に掲載を予定しています。

### 2 日本赤十字看護大学における歴史史料の展示

一般の方々に赤十字と看護の歴史についてより広く知っていただくために、日本赤十字看護大学1階でナイチンゲール生誕200年に関する企画展示を実施しました。

日本赤十字看護大学展示コーナー

## 5 研究員の海外調査・研究活動

### 1 研究員の派遣

#### ア.赤十字国際委員会及び国際赤十字・赤新月社連盟への派遣

同施設に角田 敦彦 副所長を派遣し、歴史的資料から特に開発分野での国際赤十字の政策決定や具体的な活動についての資料を収集しました。

#### イ.赤十字国際委員会及びKorea University主催の国際人道法に関する研修に参加

人道法普及活動等について学ぶため、齊藤 彰彦 研究員を韓国に派遣しました。

### 2 研究員の研究

#### ア.「日本赤十字学園所属の看護系大学および専門学校における災害看護教育および放射線災害看護教育に関する研究」

佐藤 美佳 研究員(日本赤十字秋田看護大学講師)

#### イ.「コミュニティに根ざした心理社会的支援～受講者用読本」(国際赤十字・赤新月社連盟刊行)の日本語版刊行

齋藤 和樹 研究員(日本赤十字秋田看護大学准教授)

※Community-Based Psychosocial Support - Participant's Bookの翻訳を300部刊行。PDFは当センターとIFRCのPSセンターのウェブサイトにアップされます。

#### ウ.「国民保護法に基づく日本赤十字社の対応に関する調査研究」

新沼 剛 研究員(日本赤十字秋田看護大学講師)

# 学校会計の決算状況を報告します

## 1 資金収支決算

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応する全ての収入・支出の内容並びに支払資金の動きを明らかにするものです。

### 1 資金収入の部

**資金収入合計 12,698,223千円（前年度比 2,072,463千円 減）**

資金収入合計で、**減額**となりました。

（単位：千円）

| 科目 | 令和元年度 予算額 | 令和元年度 決算額 | 令和元年度 差異 | 平成30年度 決算額 | 対前年度比較 増減額 | 対前年度比較 増減率(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学生生徒等納付金収入 | 5,329,614 | 5,281,160 | 48,454 | 5,330,656 | ❶ △ **49,496** | △ 0.9 |
| 手数料収入 | 122,829 | 119,144 | 3,685 | 114,578 | ❷ **4,566** | 4.0 |
| 寄付金収入 | 54,149 | 55,012 | △ 863 | 64,613 | △ **9,601** | △ 14.9 |
| 補助金収入 | 854,314 | 821,667 | 32,647 | 875,049 | ❸ △ **53,382** | △ 6.1 |
| 資産売却収入 | 32 | 39 | △ 7 | 10,010 | △ **9,971** | △ 99.6 |
| 付随事業・収益事業収入 | 49,467 | 40,516 | 8,951 | 48,922 | ❹ △ **8,406** | △ 17.2 |
| 受取利息・配当金収入 | 116,635 | 110,614 | 6,021 | 111,123 | △ 509 | △ 0.5 |
| 雑収入 | 47,655 | 52,779 | △ 5,124 | 58,333 | △ 5,554 | △ 9.5 |
| 借入金等収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 前受金収入 | 509,730 | 482,538 | 27,192 | 482,110 | 428 | 0.1 |
| その他の収入 | 1,494,913 | 1,847,575 | △ 352,662 | 2,550,749 | △ 703,174 | △ 27.6 |
| 資金収入調整勘定 | △ 515,608 | △ 596,430 | 80,822 | △ 553,808 | △ 42,622 | 7.7 |
| 前年度繰越支払資金 | 4,483,601 | 4,483,605 | △ 4 | 5,678,350 | ❺△ **1,194,745** | △ 21.0 |
| **合　計** | 12,547,331 | **12,698,223** | △ 150,892 | 14,770,686 | △ **2,072,463** | △ 14.0 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

**❶学生生徒等納付金収入** 前年度比**49,496千円** 減

➡前年度に比べ入学者数、在学生数が減少したことにより、前年度比**49,496千円**の**減額**となりました。

**❷手数料収入** 前年度比**4,566千円** 増

➡令和2年度の日本赤十字看護大学さいたま看護学部開設に伴う入学検定料収入の増加等により、前年度比**4,566千円**の**増額**となりました。

**❸補助金収入** 前年度比**53,382千円** 減

➡秋田短期大学の県運営費補助金、九州国際看護大学の経常費補助金の減少等により、前年度比**53,382千円**の**減額**となりました。

**❹付随事業・収益事業収入** 前年度比**8,406千円** 減

➡広島看護大学における認定看護師教育課程研修生の減少、新型コロナウイルス感染症拡大による日本赤十字看護大学における認定看護師セミナーの延期等により、前年度比**8,406千円**の**減額**となりました。

**❺前年度繰越支払資金** 前年度比**1,194,745千円** 減

➡前年度繰越支払資金（現預金）は前年度比**1,194,745千円**の**減額**となりました。

## 2 資金支出の部

**資金支出合計 12,698,223千円（前年度比 2,072,463千円 減）**

資金収入合計で、**減額**となりました。

（単位：千円）

| 科目 | 令和元年度 | | | 平成30年度決算額 | 対前年度比較 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算額 | 決算額 | 差異 | | 増減額 | 増減率(%) |
| 人件費支出 | 4,290,492 | 4,233,933 | 56,559 | 4,041,546 | ❶ **192,387** | 4.8 |
| 教育研究経費支出 | 1,403,387 | 1,298,162 | 105,225 | 1,325,576 | △ 27,414 | △ 2.1 |
| 管理経費支出 | 578,036 | 538,513 | 39,523 | 372,066 | ❷ **166,447** | 44.7 |
| 借入金等利息支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 借入金等返済支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 施設関係支出 | 244,453 | 178,663 | 65,790 | 1,736,811 | ❸ △ **1,558,148** | △ 89.7 |
| 設備関係支出 | 427,344 | 375,772 | 51,572 | 192,949 | ❹ **182,823** | 94.8 |
| 資産運用支出 | 755,121 | 448,501 | 306,620 | 1,374,080 | ❺ △ **925,579** | △ 67.4 |
| その他の支出 | 1,605,979 | 1,899,309 | △ 293,330 | 1,725,125 | 174,184 | 10.1 |
| 予備費 | 3,400 | 0 | 3,400 | 0 | 0 | — |
| 資金支出調整勘定 | △ 525,188 | △ 594,461 | 69,273 | △ 481,076 | △ 113,385 | 23.6 |
| 翌年度繰越支払資金 | 3,764,307 | 4,319,827 | △ 555,520 | 4,483,605 | ❻ △ **163,778** | △ 3.7 |
| **合　計** | 12,547,331 | **12,698,223** | △ 150,892 | 14,770,686 | △ **2,072,463** | △ 14.0 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

### ❶人件費支出　前年度比192,387千円 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置準備のための教職員の確保に伴う人件費支出の増加等により、前年度比**192,387円**の**増額**となりました。

### ❷管理経費支出　前年度比166,447千円 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う備品等整備に係る消耗品費支出の増加等により、前年度比**166,447千円**の**増額**となりました。

### ❸施設関係支出　前年度比1,558,148千円 減

➡前年度計上した法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部の建物建設費の減少等により、**1,558,148千円**の**減額**となりました。

### ❹設備関係支出　前年度比182,823千円 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う機器備品の整備に係る教育研究用機器備品支出等の増加により、前年度比**182,823千円**の**増額**となりました。

### ❺資産運用支出　前年度比925,579千円 減

➡前年度各大学が計上した施設設備整備引当特定資産、第3号基本金引当特定資産への繰入支出の減少等の影響により、前年度比**925,579千円**の**減額**となりました。

### ❻翌年度繰越支払資金　前年度比163,778千円 減

➡翌年度繰越支払資金（現預金）は、**163,778千円**の**減額**となりました。

## 2 事業活動収支決算

事業活動収支計算書は、学生生徒等納付金等本業の教育活動に対する「教育活動収支」、受取利息等財務活動に対する「教育活動外収支」、資産売却等臨時的な活動に対する「特別収支」の3つに区分して表示しています。

また、本計算書は、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容や、基本金組入額、基本金取崩額等を含め、事業収支の均衡状態を示すものであります。

（単位：千円）

| 区分 | | 科目 | 令和元年度 予算額 | 令和元年度 決算額 | 令和元年度 差異 | 平成30年度 決算額 | 対前年度比較 増減額 | 対前年度比較 増減率(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 5,329,614 | 5,281,160 | 48,454 | 5,330,656 | ❶ △ **49,496** | △ 0.9 |
| | | 手数料 | 122,829 | 119,144 | 3,685 | 114,578 | ❷ **4,566** | 4.0 |
| | | 寄付金 | 53,620 | 51,990 | 1,630 | 55,134 | △ 3,144 | △ 5.7 |
| | | 経常費等補助金 | 854,314 | 821,667 | 32,647 | 875,049 | ❸ △ **53,382** | △ 6.1 |
| | | 付随事業収入 | 49,467 | 40,516 | 8,951 | 48,922 | ❹ △ **8,406** | △ 17.2 |
| | | 雑収入 | 48,325 | 52,863 | △ 4,538 | 57,802 | △ 4,939 | △ 8.5 |
| | | 計 | 6,458,169 | 6,367,342 | 90,827 | 6,482,141 | △ 114,799 | △ 1.8 |
| | 事業活動支出の部 | 人件費 | 4,345,166 | 4,229,491 | 115,675 | 4,087,366 | ❻ **142,125** | 3.5 |
| | | 教育研究経費 | 2,108,292 | 1,991,312 | 116,980 | 2,075,996 | ❼ △ **84,684** | △ 4.1 |
| | | 管理経費 | 680,012 | 632,087 | 47,925 | 421,158 | ❽ **210,929** | 50.1 |
| | | 徴収不能額等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | | 計 | 7,133,470 | 6,852,891 | 280,579 | 6,584,520 | 268,371 | 4.1 |
| | 教育活動収支差額 | | △ 675,301 | △ 485,548 | △ 189,753 | △ 102,379 | △ 383,169 | 374.3 |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金 | 116,635 | 110,614 | 6,021 | 111,123 | △ 509 | △ 0.5 |
| | | その他の教育活動外収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | | 計 | 116,635 | 110,614 | 6,021 | 111,123 | △ 509 | △ 0.5 |
| | 事業活動支出の部 | 借入金等利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | | その他の教育活動外支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | 教育活動外収支差額 | | 116,635 | 110,614 | 6,021 | 111,123 | △ 509 | △ 0.5 |
| 経常収支差額 | | | △ 558,666 | △ 374,934 | △ 183,732 | 8,744 | △ 383,678 | △ 4387.9 |
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | 資産売却差額 | 32 | 39 | △ 7 | 10 | 29 | 290.0 |
| | | その他の特別収入 | 1,665 | 6,233 | △ 4,568 | 14,536 | ❺ △ **8,303** | △ 57.1 |
| | | 計 | 1,697 | 6,273 | △ 4,576 | 14,546 | △ 8,273 | △ 56.9 |
| | 事業活動支出の部 | 資産処分差額 | 12,496 | 19,974 | △ 7,478 | 16,806 | ❾ **3,168** | 18.9 |
| | | その他の特別支出 | 0 | 376 | △ 376 | 1,216 | △ 840 | △ 69.1 |
| | | 計 | 12,496 | 20,351 | △ 7,855 | 18,022 | 2,329 | 12.9 |
| | 特別収支差額 | | △ 10,799 | △ 14,077 | 3,278 | △ 3,476 | △ 10,601 | 305.0 |
| 予備費 | | | 3,400 | 0 | 3,400 | 0 | 0 | — |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | | △ 572,865 | △ 389,012 | △ 183,853 | 5,268 | △ 394,280 | △ 7484.4 |
| 基本金組入額合計 | | | △ 585,151 | △ 312,419 | △ 272,732 | △ 745,614 | 433,195 | △ 58.1 |
| 当年度収支差額 | | | △ 1,158,016 | △ 701,431 | △ 456,585 | △ 740,346 | 38,915 | △ 5.3 |
| 前年度繰越収支差額 | | | 1,045,248 | 1,045,249 | △ 1 | 1,702,548 | △ 657,299 | △ 38.6 |
| 基本金取崩額 | | | 38,788 | 61,848 | △ 23,060 | 83,047 | △ 21,199 | △ 25.5 |
| 翌年度繰越収支差額 | | | △ 73,980 | 405,667 | △ 479,647 | 1,045,249 | △ 639,582 | △ 61.2 |
| 参考 | 事業活動収入計 | | 6,576,501 | 6,484,230 | 92,271 | 6,607,811 | △ 123,581 | △ 1.9 |
| | 事業活動支出計 | | 7,149,366 | 6,873,242 | 276,124 | 6,602,543 | 270,699 | 4.1 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

## 1 事業活動収入の部

### ❶学生生徒等納付金　前年度比49,496千円 減

➡前年度に比べ入学者数、在学生数が減少したことにより、前年度比**49,496千円**の**減額**となりました。

### ❷手数料収入　前年度比4,566千円 増

➡令和2年度の日本赤十字看護大学さいたま看護学部開設に伴う入学検定料収入の増加等により、
前年度比**4,566千円**の**増額**となりました。

### ❸経常費等補助金　前年度比53,382千円 減

➡秋田短期大学の県運営費補助金、九州国際看護大学の経常費補助金の減少等により、
前年度比**53,382千円**の**減額**となりました。

### ❹付随事業収入　前年度比8,406千円 減

➡広島看護大学における認定看護師教育課程研修生の減少、新型コロナウイルス感染症拡大による
日本赤十字看護大学における認定看護師セミナーの延期等により、前年度比**8,406千円**の**減額**となりました。

### ❺その他の特別収入　前年度比8,303千円 減

➡日本赤十字看護大学、豊田看護大学に対する施設設備寄付金の減少等により、前年度比**8,303千円**の**減額**となりました。

## 2 事業活動支出の部

### ❻人件費　前年度比142,125千円 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置準備のための教職員の確保に伴う人件費支出の増加等により、
前年度比**142,125千円**の**増額**となりました。

### ❼教育研究経費　前年度比84,684千円 減

➡豊田看護大学における電気設備等の耐用年数経過に伴う減価償却額の減少、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による
各大学の旅費交通費の減少等により、前年度比**84,684円**の**減額**となりました。

### ❽管理経費　前年度比210,929千円 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う備品等整備に係る消耗品費支出、減価償却額の増加等により、
前年度比**210,929千円**の**増額**となりました。

### ❾資産処分差額　前年度比3,168千円 増

➡秋田看護大学における視聴覚設備及び日本赤十字看護大学、広島看護大学における図書の除却に伴う
設備処分差額の増加等により、前年度比**3,168千円**の**増額**となりました。

## 3 基本金組入額等

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入から組み入れた金額です。

令和元年度は、基本金全体としては、312,419千円組み入れ、61,848千円取り崩しました。

**（参考）基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。**

- 第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、令和元年度は、法人本部及び5大学で合わせて298,419千円を組み入れ、広島看護大学及び秋田短期大学で合わせて56,848千円を取り崩しました。
- 第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、令和元年度の組み入れはありません。
- 第4号基本金は、恒常的な資金の維持のための設定であり、令和元年度は7大学で14,000千円を組み入れ、法人本部において5,000千円を取り崩しました。

# 3 貸借対照表

資産の部、負債の部及び純資産の科目ごとに、当該会計年度末の額を前年度会計年度末の額と比較して、当該会計年度末の財産の状況を表すものです。

## 1 資産の部

（単位：千円）

| 科目＼年度 | | 令和元年度 | 平成30年度 | 増減 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 資産の部 | 固定資産 | 44,981,105 | 45,186,982 | | △ 205,877 |
| | 有形固定資産 | 23,690,938 | 23,920,709 | ❶ | △ **229,771** |
| | 特定資産 | 21,043,255 | 21,012,073 | ❷ | **31,182** |
| | その他の固定資産 | 246,911 | 254,200 | ❸ | △ **7,289** |
| | 流動資産 | 4,442,640 | 4,527,319 | ❹ | △ **84,679** |
| | **資産の部合計** | **49,423,745** | **49,714,301** | | △ **290,556** |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

### 【資産の部】

**❶有形固定資産** 前年度比**229,771千円** 減

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う初度機器整備の他、豊田看護大学の空調等設備更新があった一方、建物等の減価償却額の計上により**減少**しました。

**❷特定資産** 前年度比**31,182千円** 増

➡将来の建替え等に使用する施設設備整備引当特定資産等が**増加**しました。

**❸その他の固定資産** 前年度比**7,289千円** 減

➡ソフトウェアの減価償却額の計上等により**減少**しました。

**❹流動資産** 前年度比**84,679千円** 減

➡現金・預金から施設設備整備引当特定資産に繰入れた影響もあり、現金・預金等が**減少**しました。

## 2 負債・純資産の部

（単位：千円）

| 科目＼年度 | | 令和元年度 | 平成30年度 | 増減 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 負債の部 | 固定負債 | 1,753,254 | 1,783,226 | ❶ | △ 29,972 |
| | 流動負債 | 1,267,808 | 1,139,380 | ❷ | 128,428 |
| | 負債の部合計 | 3,021,063 | 2,922,606 | | 98,457 |
| 純資産の部 | 基本金 | 45,997,015 | 45,746,445 | ❸ | 250,570 |
| | 繰越収支差額 | 405,667 | 1,045,250 | ❹ | △ 639,583 |
| | 純資産の部合計 | 46,402,682 | 46,791,695 | | △ 389,013 |
| 負債及び純資産の部合計 | | 49,423,745 | 49,714,301 | | △ 290,556 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

### 【負債の部】

**❶固定負債** 前年度比29,972千円 減

➡退職給与引当金の影響により**減少**しました。

**❷流動負債** 前年度比128,428千円 増

➡年度末に計上した未払金により**増加**しました。

### 【純資産の部】

**❸基本金** 前年度比250,570千円 増

➡法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う機器備品等初度整備、豊田看護大学における校舎空調設備更新等により固定資産取得による組み入れを行ったため、第１号基本金は**増加**しました。

➡恒常的な資金の維持として計上した資金の組み入れを行ったため、第４号基本金は若干**増加**しました。

**❹繰越収支差額** 前年度比639,583千円 減

➡基本金組入額等2.5億円の増、及び有形固定資産の減価償却による減等により、繰越収支差額は**減少**しました。

# 4 財産目録

財産目録は、令和2年3月31日現在の基本財産、運用財産、負債額を示したものです。

**❶資産総額　49,423,745,801円**

➡内　基本財産　**23,765,306,554円**
　　運用財産　**25,658,439,247円**

**❷負債総額　3,021,063,133円**

**正味財産　46,402,682,668円**

（単位：円）

| 科目 | 数量 | 金額 |
|---|---|---|
| ❶資産 | | **49,423,745,801** |
| 1 基本財産 | | 23,765,306,554 |
| （1）土地（校舎敷地、運動場等） | 205,651.48㎡ | 7,270,018,309 |
| （2）建物（校舎、図書館、体育館等） | 104,363.76㎡ | 13,746,967,743 |
| （3）図書（和書、洋書、　　視聴覚資料 11,803 点） | 359,023冊 | 1,591,769,275 |
| （4）教具等（教具、校具、管理用備品） | 18,552点 | 919,326,442 |
| （5）構築物（道路舗装工事他 ） | | 126,882,427 |
| （6）その他（車両、電話加入権等） | | 110,342,358 |
| 2 運用財産 | | 25,658,439,247 |
| （1）預金・現金 | | 4,319,827,136 |
| （2）積立金（施設設備整備引当特定資産等） | | 21,043,255,790 |
| （3）有価証券（国債等） | | 163,911,445 |
| （4）不動産（土地） | | 163,584 |
| （5）長期貸付金（奨学金） | | 8,330,500 |
| （6）差入保証金（敷金等） | | 137,490 |
| （7）未収入金（地方公共団体補助金等） | | 105,590,881 |
| （8）前払金・立替金・短期貸付金 | | 17,222,421 |
| ❷負債 | | **3,021,063,133** |
| 1 固定負債（長期未払金、退職給与引当金） | | 1,753,254,649 |
| 2 流動負債（前受金、未払金、預り金） | | 1,267,808,484 |
| 借用財産 | | |
| 1 土地（校舎敷地等） | 65,006.48㎡ | |
| 2 建物（寄宿舎等） | 3,960.15㎡ | |

# 5 参考

## 1 過去5ヵ年の資金収支計算書（学校法人全体）

（単位：千円）

| 科目 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 対前年比（%） |
| 資金収入の部 | 学生生徒等納付金収入 | 5,306,024 | 37.8 | 5,341,242 | 36.2 | 5,343,091 | 35.7 | 5,330,656 | 36.1 | 5,281,160 | 41.6 | 99.1 |
| | 手数料収入 | 105,433 | 0.8 | 118,718 | 0.8 | 112,046 | 0.7 | 114,578 | 0.8 | 119,144 | 0.9 | 104.0 |
| | 寄付金収入 | 213,031 | 1.5 | 78,832 | 0.5 | 213,666 | 1.4 | 64,613 | 0.4 | 55,012 | 0.4 | 85.1 |
| | 補助金収入 | 1,005,292 | 7.2 | 975,050 | 6.6 | 1,082,030 | 7.2 | 875,049 | 5.9 | 821,667 | 6.5 | 93.9 |
| | 資産売却収入 | 156,120 | 1.1 | 601,020 | 4.1 | 428 | 0.0 | 10,010 | 0.1 | 39 | 0.0 | 0.4 |
| | 付随事業・収益事業収入 | 101,927 | 0.7 | 89,258 | 0.6 | 74,247 | 0.5 | 48,922 | 0.3 | 40,516 | 0.3 | 82.8 |
| | 受取利息・配当金収入 | 143,425 | 1.0 | 128,307 | 0.9 | 111,571 | 0.7 | 111,123 | 0.8 | 110,614 | 0.9 | 99.5 |
| | 前受金収入 | 614,610 | 4.4 | 637,705 | 4.3 | 518,985 | 3.5 | 482,110 | 3.3 | 482,538 | 3.8 | 100.1 |
| | その他の収入等 | 1,319,094 | 9.4 | 1,715,950 | 11.6 | 2,060,654 | 13.8 | 2,609,082 | 17.7 | 1,900,354 | 15.0 | 72.8 |
| | 資金収入調整勘定 | △ 691,459 | △ 4.9 | △ 671,505 | △ 4.5 | △ 672,974 | △ 4.5 | △ 553,808 | △ 3.7 | △ 596,430 | △ 4.7 | 107.7 |
| | 前年度繰越支払資金 | 5,754,965 | 41.0 | 5,753,612 | 39.0 | 6,137,758 | 41.0 | 5,678,350 | 38.4 | 4,483,605 | 35.3 | 79.0 |
| | 資金収入合計 | 14,028,466 | 100.0 | 14,768,192 | 100.0 | 14,981,505 | 100.0 | 14,770,686 | 100.0 | 12,698,223 | 100.0 | 86.0 |
| 資金支出の部 | 人件費支出 | 3,797,519 | 27.1 | 4,071,750 | 27.6 | 3,899,531 | 26.0 | 4,041,547 | 27.4 | 4,233,933 | 33.3 | 104.8 |
| | 教育研究経費支出 | 1,351,849 | 9.6 | 1,560,668 | 10.6 | 1,337,204 | 8.9 | 1,325,577 | 9.0 | 1,298,162 | 10.2 | 97.9 |
| | 管理経費支出 | 362,715 | 2.6 | 354,005 | 2.4 | 420,875 | 2.8 | 372,067 | 2.5 | 538,513 | 4.2 | 144.7 |
| | 借入金等利息・返済支出 | 0 | − | 0 | − | 0 | − | 0 | − | 0 | − | − |
| | 施設関係支出 | 42,163 | 0.3 | 24,421 | 0.2 | 70,256 | 0.5 | 1,736,811 | 11.8 | 178,663 | 1.4 | 10.3 |
| | 設備関係支出 | 123,454 | 0.9 | 184,594 | 1.2 | 542,494 | 3.6 | 192,950 | 1.3 | 375,772 | 3.0 | 194.8 |
| | 資産運用支出 | 1,373,319 | 9.8 | 1,507,966 | 10.2 | 1,666,819 | 11.1 | 1,374,080 | 9.3 | 448,501 | 3.5 | 32.6 |
| | その他支出 | 1,568,786 | 11.2 | 1,509,891 | 10.2 | 1,829,308 | 12.2 | 1,725,125 | 11.7 | 1,899,309 | 15.0 | 110.1 |
| | 資金支出調整勘定 | △ 344,955 | △ 2.5 | △ 582,864 | △ 3.9 | △ 463,336 | △ 3.1 | △ 481,076 | △ 3.3 | △ 594,461 | △ 4.7 | 123.6 |
| | 翌年度繰越支払資金 | 5,753,612 | 41.0 | 6,137,758 | 41.6 | 5,678,350 | 37.9 | 4,483,605 | 30.4 | 4,319,827 | 34.0 | 96.3 |
| | 資金支出合計 | 14,028,466 | 100.0 | 14,768,192 | 100.0 | 14,981,505 | 100.0 | 14,770,686 | 100.0 | 12,698,223 | 100.0 | 86.0 |

＊資金収支においては、その年度の現金の動きを表示していることから、収入合計と支出合計額が一致している。
＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。
＊学校法人全体の資金収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。
＊各科目の構成比率は、それぞれの合計に占める割合となっている。

## 2 過去5ヵ年の事業活動収支計算書（学校法人全体）

（単位：千円）

| 科目 | | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 対前年比（%） |
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 5,306,024 | 73.7 | 5,341,242 | 78.6 | 5,343,091 | 76.0 | 5,330,656 | 80.7 | 5,281,160 | 81.4 | 99.1 |
| | | 手数料 | 105,433 | 1.5 | 118,718 | 1.7 | 112,046 | 1.6 | 114,578 | 1.7 | 119,144 | 1.8 | 104.0 |
| | | 寄付金 | 213,956 | 3.0 | 77,502 | 1.1 | 63,335 | 0.9 | 55,134 | 0.8 | 51,990 | 0.8 | 94.3 |
| | | 経常費等補助金 | 970,000 | 13.5 | 941,533 | 13.9 | 1,082,030 | 15.4 | 875,049 | 13.2 | 821,667 | 12.7 | 93.9 |
| | | 付随事業収入 | 102,427 | 1.4 | 89,258 | 1.3 | 74,247 | 1.1 | 48,922 | 0.7 | 40,516 | 0.6 | 82.8 |
| | | 雑収入 | 72,741 | 1.0 | 55,119 | 0.8 | 52,394 | 0.7 | 57,802 | 0.9 | 52,863 | 0.8 | 91.5 |
| | | 計 | 6,770,583 | 94.1 | 6,623,373 | 97.5 | 6,727,145 | 95.7 | 6,482,141 | 98.1 | 6,367,342 | 98.2 | 98.2 |
| | 事業活動支出の部 | 人件費 | 3,893,219 | 59.4 | 4,080,546 | 54.8 | 4,046,653 | 61.7 | 4,087,366 | 61.9 | 4,229,491 | 61.5 | 103.5 |
| | | 教育研究経費 | 2,252,363 | 34.4 | 2,299,704 | 30.9 | 2,045,489 | 31.2 | 2,075,996 | 31.4 | 1,991,312 | 29.0 | 95.9 |
| | | 管理経費 | 395,789 | 6.0 | 528,602 | 7.1 | 450,137 | 6.9 | 421,158 | 6.4 | 632,087 | 9.2 | 150.1 |
| | | 徴収不能額等 | 250 | 0.0 | 600 | 0.0 | 200 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | | 計 | 6,541,621 | 99.8 | 6,909,454 | 92.7 | 6,542,480 | 99.8 | 6,584,520 | 99.7 | 6,852,891 | 99.7 | 104.1 |
| | 教育活動収支差額 | | 228,961 | － | △ 286,080 | － | 184,665 | － | △ 102,379 | － | △ 485,548 | － | 474.3 |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金 | 143,425 | 2.0 | 128,307 | 1.9 | 111,571 | 1.6 | 111,123 | 1.7 | 110,614 | 1.7 | 99.5 |
| | | その他の教育活動外収入 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | | 計 | 143,425 | 2.0 | 128,307 | 1.9 | 111,571 | 1.6 | 111,123 | 1.7 | 110,614 | 1.7 | 99.5 |
| | 事業活動支出の部 | 借入金等利息 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | | その他の教育活動外支出 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | | 計 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | 教育活動外収支差額 | | 143,425 | － | 128,307 | － | 111,571 | － | 111,123 | － | 110,614 | － | 99.5 |
| 経常収支差額 | | | 372,387 | － | △ 157,772 | － | 296,237 | － | 8,744 | － | △ 374,934 | － | △ 4,287.9 |
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | 資産売却差額 | 0 | 0.0 | 295 | 0.0 | 428 | 0.0 | 10 | 0.0 | 39 | 0.0 | 390.0 |
| | | その他の特別収入 | 281,332 | 3.9 | 43,025 | 0.6 | 190,129 | 2.7 | 14,536 | 0.2 | 6,233 | 0.1 | 42.9 |
| | | 計 | 281,332 | 3.9 | 43,321 | 0.6 | 190,557 | 2.7 | 14,546 | 0.2 | 6,273 | 0.1 | 43.1 |
| | 事業活動支出の部 | 資産処分差額 | 8,335 | 0.1 | 536,838 | 7.2 | 7,659 | 0.1 | 16,806 | 0.3 | 19,974 | 0.3 | 118.9 |
| | | その他の特別支出 | 2,561 | 0.0 | 4,563 | 0.1 | 3,495 | 0.1 | 1,216 | 0.0 | 376 | 0.0 | 30.9 |
| | | 計 | 10,896 | 0.2 | 541,401 | 7.3 | 11,154 | 0.2 | 18,022 | 0.3 | 20,351 | 0.3 | 112.9 |
| | 特別収支差額 | | 270,435 | － | △ 498,080 | － | 179,402 | － | △ 3,476 | － | △ 14,077 | － | 405.0 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | | 642,822 | － | △ 655,852 | － | 475,639 | － | 5,268 | － | △ 389,012 | － | △ 7,384.4 |
| 基本金組入額合計 | | | △ 630,791 | － | △ 398,397 | － | △ 541,630 | － | △ 745,614 | － | △ 312,419 | － | 41.9 |
| 当年度収支差額 | | | 12,031 | － | △ 1,054,249 | － | △ 65,990 | － | △ 740,346 | － | △ 701,431 | － | 94.7 |
| 前年度繰越収支差額 | | | 2,712,487 | － | 2,727,903 | － | 1,745,653 | － | 1,702,548 | － | 1,045,249 | － | 61.4 |
| 基本金取崩額 | | | 3,384 | － | 72,000 | － | 22,885 | － | 83,047 | － | 61,848 | － | 74.5 |
| 翌年度繰越収支差額 | | | 2,727,903 | － | 1,745,653 | － | 1,702,548 | － | 1,045,249 | － | 405,667 | － | 38.8 |

（参考）

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業活動収入計 | 7,195,341 | 100.0 | 6,795,003 | 100.0 | 7,029,274 | 100.0 | 6,607,811 | 100.0 | 6,484,230 | 100.0 | 98.1 |
| 事業活動支出計 | 6,552,518 | 100.0 | 7,450,855 | 100.0 | 6,553,635 | 100.0 | 6,602,543 | 100.0 | 6,873,242 | 100.0 | 104.1 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。
＊学校法人全体の事業活動収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。
＊各科目の構成比率は、事業活動収入計及び支出計に対して、それぞれに占める割合となっている。

## 3 過去5ヵ年の貸借対照表（学校法人全体）

（単位：千円）

| 科目 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 対前年比(%) |
| 資産の部 | 固定資産 | 43,798,268 | 88.2 | 43,057,370 | 87.4 | 43,944,103 | 88.5 | 45,186,981 | 90.9 | 44,981,105 | 91.0 | 99.5 |
| | 有形固定資産 | 24,180,755 | 48.7 | 22,966,464 | 46.6 | 22,779,547 | 45.9 | 23,920,708 | 48.1 | 23,690,938 | 47.9 | 99.0 |
| | 特定資産 | 18,922,367 | 38.1 | 20,020,170 | 40.6 | 20,890,240 | 42.1 | 21,012,073 | 42.3 | 21,043,255 | 42.6 | 100.1 |
| | その他の固定資産 | 695,145 | 1.4 | 70,735 | 0.1 | 274,315 | 0.6 | 254,200 | 0.5 | 246,911 | 0.5 | 97.1 |
| | 流動資産 | 5,842,367 | 11.8 | 6,204,679 | 12.6 | 5,719,188 | 11.5 | 4,527,319 | 9.1 | 4,442,640 | 9.0 | 98.1 |
| | うち現金預金 | 5,753,612 | 11.6 | 6,137,758 | 12.5 | 5,678,350 | 11.4 | 4,483,605 | 9.0 | 4,319,827 | 8.7 | 96.3 |
| | **資産の部合計** | **49,640,635** | 100.0 | **49,262,049** | 100.0 | **49,663,292** | 100.0 | **49,714,300** | 100.0 | **49,423,745** | 100.0 | 99.4 |

（単位：千円）

| 科目 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 対前年比(%) |
| 負債の部 | | 1,616,968 | 3.3 | 1,604,129 | 3.3 | 1,740,147 | 3.5 | 1,783,226 | 3.6 | 1,753,254 | 3.5 | 98.3 |
| | 流動負債 | 1,057,027 | 2.1 | 1,347,132 | 2.7 | 1,136,717 | 2.3 | 1,139,380 | 2.3 | 1,267,808 | 2.6 | 111.3 |
| | うち前受金 | 614,610 | 1.2 | 637,705 | 1.3 | 518,985 | 1.0 | 481,689 | 1.0 | 472,788 | 1.0 | 98.2 |
| | **負債の部合計** | **2,673,996** | 5.4 | **2,951,262** | 6.0 | **2,876,865** | 5.8 | **2,922,606** | 5.9 | **3,021,063** | 6.1 | 103.4 |
| 純資産の部 | 基本金 | 44,238,736 | 89.1 | 44,565,133 | 90.5 | 45,083,878 | 90.8 | 45,746,445 | 92.0 | 45,997,015 | 93.1 | 100.5 |
| | 第１号基本金 | 40,705,736 | 82.0 | 40,804,133 | 82.8 | 41,019,878 | 82.6 | 41,374,445 | 83.2 | 41,616,015 | 84.2 | 100.6 |
| | 第２号基本金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | - |
| | 第３号基本金 | 3,030,000 | 6.1 | 3,330,000 | 6.8 | 3,630,000 | 7.3 | 3,930,000 | 7.9 | 3,930,000 | 8.0 | 100.0 |
| | 第４号基本金 | 503,000 | 1.0 | 431,000 | 0.9 | 434,000 | 0.9 | 442,000 | 0.9 | 451,000 | 0.9 | 102.0 |
| | 繰越収支差額 | 2,727,903 | 5.5 | 1,745,653 | 3.5 | 1,702,548 | 3.4 | 1,045,249 | 2.1 | 405,667 | 0.8 | 38.8 |
| | **純資産の部合計** | **46,966,639** | 94.6 | **46,310,787** | 94.0 | **46,786,427** | 94.2 | **46,791,694** | 94.1 | **46,402,682** | 93.9 | 99.2 |
| **負債の部、純資産の部合計** | | **49,640,635** | 100.0 | **49,262,049** | 100.0 | **49,663,292** | 100.0 | **49,714,300** | 100.0 | **49,423,745** | 100.0 | 99.4 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

# 人道の理念に基づき、日本の看護・介護

## 学園の沿革

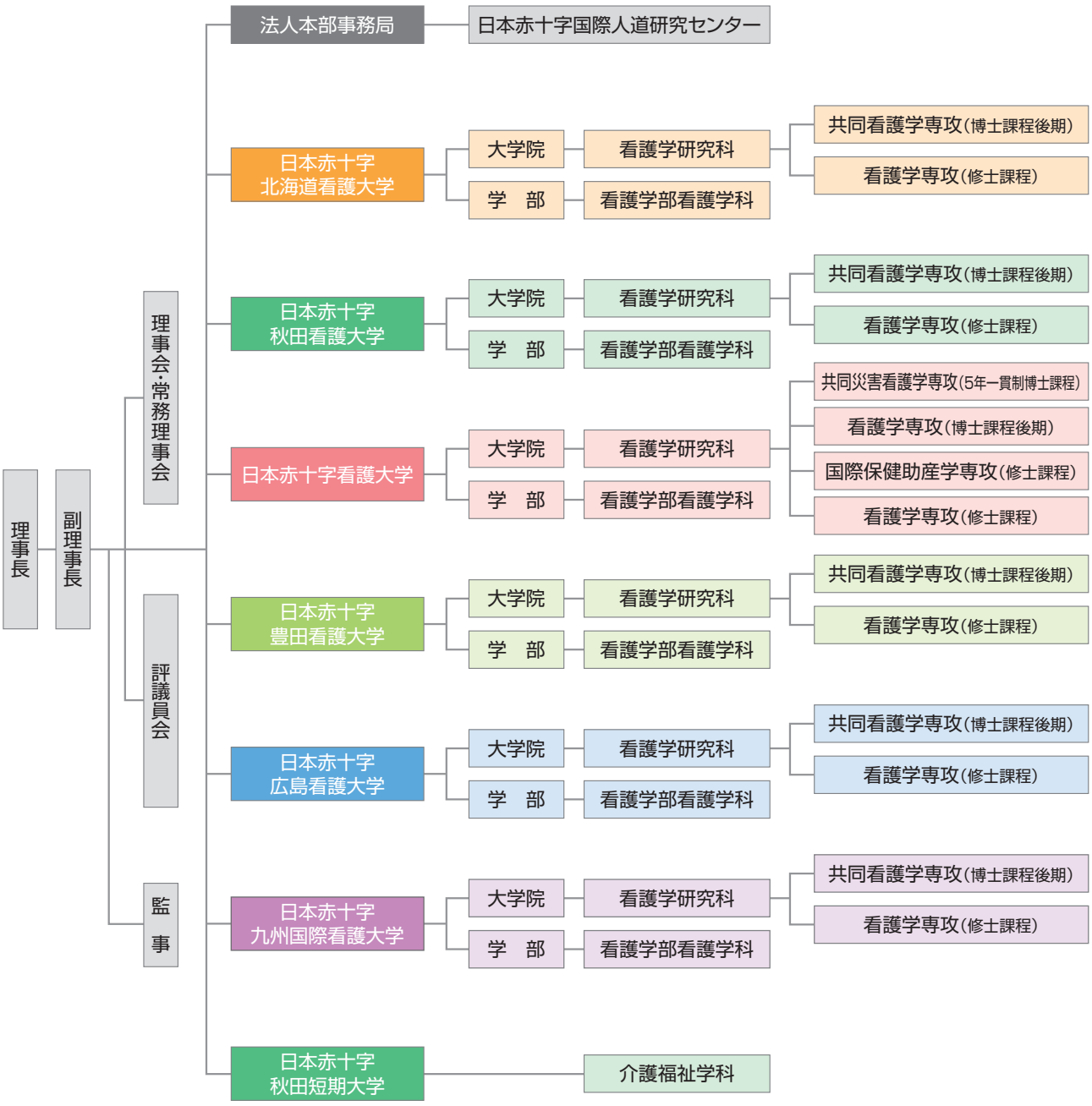
令和2年3月31日　現在

| | |
|---|---|
| 明治10年（1877年） | 博愛社を設立 |
| 明治20年（1887年） | 博愛社から日本赤十字社に改称 |
| 明治23年（1890年） | 日本赤十字社看護婦養成所を設立 |
| 昭和21年（1946年） | 日本赤十字女子専門学校に昇格 |
| | 財団法人日本赤十字女子専門学校を設立 |
| 昭和29年（1954年） | 財団法人日本赤十字女子専門学校を学校法人日本赤十字女子短期大学に改組 |
| | 日本赤十字女子短期大学を設立 |
| 昭和41年（1966年） | 学校法人日本赤十字女子短期大学を学校法人日本赤十字学園に改称 |
| | 日本赤十字女子短期大学を中央女子短期大学に改称 |
| | 日本赤十字武蔵野女子短期大学看護学科を開設 |
| 昭和50年（1975年） | 学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を開設 |
| 昭和53年（1978年） | 学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校に改称 |
| 昭和61年（1986年） | 日本赤十字看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 昭和63年（1988年） | 日本赤十字中央女子短期大学を閉校 |
| 平成元年（1989年） | 日本赤十字愛知女子短期大学看護学科を開設 |
| | 学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校を閉校 |
| 平成5年（1993年） | 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成7年（1995年） | 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程後期を開設 |
| 平成8年（1996年） | 日本赤十字秋田短期大学看護学科・介護福祉学科を開設 |
| 平成9年（1997年） | 日本赤十字武蔵野女子短期大学を日本赤十字武蔵野短期大学に改称 |
| | 日本赤十字愛知女子短期大学を日本赤十字愛知短期大学に改称 |
| 平成11年（1999年） | 日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 平成12年（2000年） | 日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 平成13年（2001年） | 日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 平成15年（2003年） | 日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成16年（2004年） | 日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科を開設 |
| | 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成17年（2005年） | 日本赤十字看護大学と日本赤十字武蔵野短期大学が統合 |
| 平成18年（2006年） | 日本赤十字愛知短期大学を閉校 |
| 平成19年（2007年） | 日本赤十字武蔵野短期大学を閉校 |
| | 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成21年（2009年） | 日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 平成22年（2010年） | 日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成23年（2011年） | 日本赤十字秋田短期大学看護学科を閉科 |
| 平成26年（2014年） | 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科共同災害看護学専攻博士課程を開設（国公私立5大学の共同教育課程） |
| | 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成28年（2016年） | 日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 |
| | 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 |
| | 日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 |
| | 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 |
| | 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設（赤十字5大学の共同教育課程） |

# 福祉を支える多くの人材を育成しています。

## 学園の組織

令和2年3月31日　現在




## 教職員の概要

令和元年5月1日　現在

（単位：人）

| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 事務職 | 教職員合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 92 | 56 | 70 | 75 | 23 | 131 | 447 |

## 役員・評議員一覧

令和2年3月31日　現在

### ◆理事（13人）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事長 | 大塚 義治 | 平成17年4月就任 | 日本赤十字社 社長 |
| 副理事長 | 富田 博樹 | 平成31年4月就任 | 日本赤十字社 副社長 |
| 常務理事 | 宮原 保之 | 平成31年4月就任 | 日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長 |
| | 弘川 摩子 | 平成30年4月就任 | 日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長 |
| | 井上 幹雄 | 平成30年4月就任 | 学校法人日本赤十字学園法人本部 事務局長 |
| | 安藤 広子 | 平成31年4月就任 | 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 学長 |
| 理事 | 河口 てる子 | 平成31年4月就任 | 日本赤十字北海道看護大学 学長 |
| | 守田 美奈子 | 平成31年4月就任 | 日本赤十字看護大学 学長 |
| | 高橋 高美 | 平成27年4月就任 | 一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事 |
| | 中川原 米俊 | 平成26年11月就任 | 日本赤十字社代表支部事務局長会 会長<br>（日本赤十字社東京都支部事務局長） |
| | 片田 範子 | 平成30年4月就任 | 学校法人関西医科大学関西医科大学 看護学部長・研究科長 |
| | 木曽 功 | 平成26年4月就任 | 学校法人加計学園 千葉科学大学 学長 |
| | 久保 公人 | 平成30年4月就任 | 学校法人尚美学園 理事長・尚美学園大学 学長 |

### ◆監事（2人）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 監事 | 堀野 政則 | 平成24年4月就任 | 日本赤十字社 参与 |
| | 岡村 俊克 | 平成31年4月就任 | 岡村公認会計士事務所 代表 |

### ◆評議員（27人）

鎌倉 やよい　日本赤十字豊田看護大学 学長
小山 眞理子　日本赤十字広島看護大学 学長
田村 やよひ　日本赤十字九州国際看護大学 学長
村瀬 智子　日本赤十字豊田看護大学 看護学部長
百田 武司　日本赤十字広島看護大学 研究科長
相原 義孝　日本赤十字北海道看護大学 事務局長
井上 幹雄　学校法人日本赤十字学園法人本部 事務局長
稲岡 文昭　日本赤十字広島看護大学 名誉学長
金 愛子　元石巻赤十字病院 副院長兼看護部長
高島 和歌子　学校法人華苑学園熊本看護専門学校 学校長
高橋 高美　一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事
田島 恵子　元 深谷赤十字病院 副院長兼看護部長
畠山 悦子　元 長野赤十字病院 看護部長
望月 律子　元 静岡赤十字病院 副院長兼看護部長

大塚 義治　日本赤十字社 社長
宮原 保之　日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長
弘川 摩子　日本赤十字社医療事業推進本部　副本部長兼看護部長
中川原 米俊　日本赤十字社代表支部事務局長会 会長<br>（日本赤十字社東京都支部 事務局長）
寺坂 禮治　日本赤十字社病院長連盟 会長（福岡赤十字病院 院長）
庄野 泰乃　赤十字医療施設看護部長会 会長（徳島赤十字病院 副院長兼看護部長）
井伊 久美子　公益財団法人日本看護協会 副会長（香川県立保健医療大学 学長）
梶本 章　明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 兼任講師
木曽 功　学校法人加計学園千葉科学大学 学長
島崎 謙治　国立大学法人政策研究大学院大学 教授
鈴木 隆雄　桜美林大学老年学総合研究所 所長<br>（国立長寿医療研究センター 研究所総長特任補佐）
富田 博樹　日本赤十字社 元顧問（日本赤十字社 副社長）
吉田 元治　日本赤十字社 参与（株式会社日赤振興会 代表取締役）

## 理事会・常務理事会・評議員会の開催状況

| | |
|---|---|
| 理事会 | 第1回 令和元年5月27日（月）<br>臨　時（文書審議） 令和元年7月12日（金）※議決日<br>第3回（文書審議） 令和2年3月23日（月）※議決日<br>臨　時（文書審議） 令和元年6月17日（月）※議決日<br>第2回 令和元年12月2日（月） |
| 常務理事会 | 第1回 平成31年4月8日（月）　第2回 令和元年5月13日（月）　第3回 令和元年7月8日（月）<br>第4回 令和元年9月2日（月）　第5回 令和元年10月1日（火）　第6回 令和元年11月5日（火）<br>第7回 令和2年1月14日（火）　第8回 令和2年2月3日（月）　第9回 令和2年3月2日（月） |
| 評議員会 | 第1回 令和元年5月27日（月）　第2回 令和元年12月2日（月）<br>第3回（文書審議） 令和2年3月23日（月）※議決日 |

## [各大学・短期大学の施設概要]

### 日本赤十字 北海道看護大学

住 所 〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
電 話 **0157-66-3311** URL **http://www.rchokkaido-cn.ac.jp/**
施設面積 校地：59,797m$^2$／校舎等：16,993m$^2$

### 日本赤十字 秋田看護大学・短期大学

住 所 〒010-1493 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3
電 話 **018-829-4000** URL **https://www.rcakita.ac.jp/**
施設面積 校地：43,599m$^2$／校舎等：13,771m$^2$

### 日本赤十字 看護大学

住 所 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
電 話 **03-3409-0875** URL **https://www.redcross.ac.jp/**
施設面積 校地：18,216m$^2$／校舎等：15,695m$^2$

### 日本赤十字 豊田看護大学

住 所 〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲12-33
電 話 **0565-36-5111** URL **http://www.rctoyota.ac.jp/**
施設面積 校地：19,710m$^2$／校舎等：17,954m$^2$

### 日本赤十字 広島看護大学

住 所 〒738-0052 広島県廿日市市阿品台東1-2
電 話 **0829-20-2800** URL **https://www.jrchcn.ac.jp/**
施設面積 校地：29,882m$^2$／校舎等：19,438m$^2$

### 日本赤十字 九州国際看護大学

住 所 〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1-1
電 話 **0940-35-7001** URL **https://www.jrckicn.ac.jp/**
施設面積 校地：34,456m$^2$／校舎等：15,097m$^2$

学校法人日本赤十字学園

［法人本部事務局］
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル西館6階
TEL.03-5472-2836 FAX.03-5472-2837

赤十字学園 検索